



大阪府の



2013.07 No.104

大阪府港湾協会創立50周年記念号

みなと

PORTS of OSAKA PREFECTURE

No.104 大阪府港湾協会

大阪府港湾協会創立50周年記念号



C·O·N·T·E·N·T·S

大阪府港湾協会 創立50周年記念特集

発刊にあたって 大阪府港湾協会 会長	1
創立50周年に寄せて 大阪府港湾局長	2
～わがまちとみなと～ 沿岸各市町長	3
大阪府港湾協会 ～創立50年の回顧～	9
写真で振り返る大阪府営港湾	14
大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)	24
統計でみる 府営港湾20年	31

TOPICS

堺泉北港の新岸壁が供用開始 夕凧第1号岸壁が完成!	32
新造巡視艇「みのお」就役	33
国際コンテナ貨物拡大助成事業補助金申請随時受付中	34
堺第7-3区共生の森づくり活動報告	35

EVENT

海の月間実施計画決まる	36
「第53回親と子の写生会」で大阪府港湾協会賞贈呈	36
企業立地フェア2013への出展	37
第3回堺泉北港ドラゴンボート大会開催	37

PORT NEWS

平成24年 大阪府営港湾の港勢(堺泉北・阪南・深日・尾崎・泉州・泉佐野港)	38
大阪府営港湾ポートセミナーin大阪 開催	41
大阪府営港湾国際経済セミナー開催	41
堺泉北港地元港湾振興会合同視察を実施	42
大阪府営港湾新人研修会実施	42
アフリカビジネスセミナー開催	43
WELCOME!世界からのお客様	43
ようこそ大阪府営港湾へ ～初入港のご紹介～	44

INFORMATION

運営委員会	45
新規会員ご紹介	45



表紙：「旧堺燈台」版画

作成者：金盛 弥(大阪府港湾協会 会長)

このたび版画制作の依頼を受けて海上から、そして陸上からその姿を見る機会を得ました。復元された燈台が高速道路や工場などのなかに在っても、ひととき大きな存在として凜然と立つ様を見て、復元を企画された方々の熱意に思いを致しますとともに、燈台が今後とも多くの市民に親しまれ大切にされていくことを強く念願した次第でありました。

～「旧堺燈台」～

明治10(1877)年に建築された建物で、現地に現存する木造洋式燈台としては、わが国で最も古いものの一つとして、昭和47年に国の史跡に指定されています。近年老朽化が著しかったため、平成13年度から18年度まで保存修理工事が行われ、往時の姿が甦りました。(堺市HPより抜粋)

発刊にあたって



大阪府港湾協会 会長
金盛 弥

大阪府港湾協会は、昭和38年12月10日、当時の大阪府副知事である高田敏一氏を初代会長に迎えて発足し、今年で創立50周年という大きな節目を迎えることができました。

これもひとえに、会員の皆様方並びに関係者各位の多大なるご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さて本会は、昭和30年代から40年代にかけて、堺泉北臨海工業地帯の造成や岸和田木材コンビナートの整備など大阪府の臨海地域の開発がきわめて積極的にすすめられた時代を背景に、大阪府営港湾の振興と地域経済の発展や府民生活の向上等に寄与することを目的として発足いたしました。

それ以後、国家関係機関等への要望活動や他港視察事業、各種セミナーの実施など、官民が一体となって様々な活動を展開してまいりました。また、平成18年度には府営港湾振興WEBサイト「FRIEND&SHIP」を作成し、府営港湾のPRなど情報提供を実施しています。

府営港湾を見ますと、この50年の間に、忠岡港、岸和田港、貝塚港が統合されて「阪南港」が、堺港と泉北港が統合されて「堺泉北港」が誕生し、阪南港は重要港湾に、堺泉北港は特定重要港湾にそれぞれ指定され、平成23年4月からは港湾法の改正により堺泉北港は国際拠点港湾となり、共に大きく成長を遂げてまいりました。

一方で、近年、港湾をとりまく環境は大きく変化してきております。平成20年9月のリーマンショックによって世界同時不況が起こり、府営港湾の取扱貨物量が一時落ち込みました。また、平成23年3月には未曾有の大災害となった東日本大震災が起こり、港湾の防災対策の見直しが必要となりました。さらに、大阪湾諸港の港湾管理の一元化を目標として、府市港湾管理者の統合についても検討されています。

今後さらに府営港湾が発展していくためには、物流拠点としての機能充実はもとより、災害への対策強化、そして物流の効率化を図ることなどにより利用者のニーズにこたえ、より使いやすい港湾に向けて、サービス向上に繋げていくことが何より重要だと考えております。

本会としましては、会員の皆様方と大阪府の間に立って会員の皆様方の声をお聞きし、行政との懸け橋になることが大切な役割であると認識しております。

どうか皆様方におかれましては、この50周年を一つの節目として、府営港湾並びに本会発展のため、従前にもまして格別なるご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のますますのご繁栄を祈念申し上げますとともに、本会50周年記念事業を遂行するにあたり、多分のご厚誼をお寄せいただきました方々に厚く御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

大阪府港湾協会 創立50周年に寄せて



大阪府港湾局 局長
井上 博睦

大阪府港湾協会がこのたびめでたく創立50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和38年の創立時以来50年の長きにわたり、府営港湾の整備充実に関する要望活動や、府民に親しまれる港づくりを目指した様々なイベントの開催などの事業を通じて、大阪府営港湾の振興と大阪府経済の発展に多大なご尽力をいただいていたところであり、ここに深く感謝の意を表します。

さて、大阪府では「大阪の再生」という目標を目指して全力で取り組んでおります。まずは大阪が一丸となって成長を成し遂げ、その成長活力により、府民の安全・安心のための基盤づくりを行っていく、このような「良き循環」の実現に果敢に挑戦し、大阪のみならず、関西・日本の再生をけん引していくことが必要と考えております。

とりわけ港湾は、国内外を繋ぐ物流の要であり、我が国の経済、地域の産業・生活を支える大変重要なインフラであり、大阪府においても港湾の役割は重要なものです。

近年の府営港湾について、堺泉北港では、泉北地区における公共埠頭の整備拡充を実施し、汐見埠頭や助松埠頭の岸壁整備を進めて参りました。今年4月には、大阪湾フェニックス計画に基づき産業廃棄物等で造成された埋立地である泉大津フェニックスのうち、竣功された土地の活用を目的として、泉大津フェニックスで初めてとなる水深11mの夕風第1号岸壁を供用開始しました。

また、阪南港においては、阪南2区（ちきりアイランド）及び阪南4区（貝塚埠頭）の整備、企業進出が順調に進んでおります。関西国際空港の開業とともに開発されたりんくうタウンについても、多くの企業に進出いただき賑わいを見せております。

さらに、防災の面では、一昨年の東日本大震災以降、地震や津波に対する備えについて府民の皆様の関心が高まっている中、大阪府では、堺2区に関西初の基幹的防災拠点として、耐震強化岸壁と28haの防災緑地が昨年4月に供用開始され、今後は、南海トラフ巨大地震による津波の新たな浸水想定等に基づき、津波防御施設の総点検を進め、必要な対策について着実に進めて参ります。

今後の府営港湾は、阪神港を大阪・関西の広域的な物流インフラ拠点として、一層の機能強化を図るために、大阪湾諸港が連携し、湾内の物流の効率化を図ることが必要です。

大阪府港湾局として、利用者の皆様にとって使いやすい港湾であることを念頭に置き、経済戦略面や防災面において、大阪湾内の更なる港湾機能強化を進めて参ります。

そのためにも、とりわけ50年にわたり数々の実績を重ねてこられた貴協会のご理解とご協力が不可欠であると同時に、今後、ますます貴協会の果たす役割は大きくなるものと考えております。

今後とも府営港湾の発展のため、貴協会におかれましては、これまで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この50周年という記念すべき年を飛躍台とし、さらに発展されることを心から祈念いたします。

くわがまちとみなとく

大阪府港湾協会創立50周年に寄せて



泉大津市長
伊藤 晴彦

このたび、大阪府港湾協会が設立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げますとともに、港湾整備にご尽力賜っておられます関係機関に対しまして、深く感謝を申し上げる次第であります。

本市は昨年、市制施行70周年を迎え、数々の記念事業を実施いたしました。ここに、ご協力いただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

また、本年は泉大津港湾振興会が設立40周年の記念の年であります。皆様方におかれましては、本港湾振興会の発展に寄与していただき、誠にありがとうございます。

さて、泉大津市の海は古くは、「小津の泊」「小津の松原」「小津の浦」と呼ばれ、奈良時代には、官人の船の発着場として栄え、近世には、遠浅の砂浜が豊かな漁場となっていました。明治の中頃から始まった毛布工業をはじめとする商工業の発展を図るため、昭和12年に大津港が整備され、現在の堺泉北港は、その大津港を広げた泉北港と堺港が統合され、昭和44年に特定重要港湾「堺泉北港」に指定されました。また、平成23年には特定重要港湾が国際拠点港湾へ名称が変更されました。

このような中で、本市の臨海部は関西国際空港の開港に合わせて泉大津旧港再開発事業、泉北6区国際総合物流センター、大阪湾フェニックス事業などの大規模事業が計画され建設されました。中でも泉大津旧港再開発事業は、旧港を埋立て「きららタウン泉大津」として開発され、きららセンタービルやホテル、阪神高速道路大阪湾岸線泉大津パーキングエリア、民間マンションなどが次々と建設され、港湾空間と都市空間の創造を図る港まちとして整備され、現在は、成熟した町となっています。また、大阪湾フェニックス事業では、大阪府により、自然エネルギーであるメガソーラー事業が進められており、環境都市を目指している本市にとっては、意義深い事業であります。

毛布と港湾のまちである本市においては、港湾地域の活性が不可欠であると認識しており、今後とも港湾振興にご協力を賜りますことをお願いするとともに、堺泉北港のますますの発展と大阪府及び貴協会をはじめ、関係機関のより一層のご指導、ご尽力をお願い申し上げます。



泉佐野市長
千代松 大耕

大阪府港湾協会におかれましては、創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げますとともに関係各位の並々ならぬご尽力により、港湾地域の発展に大きく貢献されたことに対しまして、深く感謝の意を表する次第でございます。

さて、本市の臨海地域は、りんくうタウンと食品コンビナート、漁港施設そして関西国際空港で構成されており、空港の開港とともに発展の道を歩んで参りました。

とりわけ、りんくうタウンは「国際医療交流の拠点づくり」の地域活性化総合特区として指定を受け、国際空港の玄関口としてふさわしい「賑わいと歴史ある迎都泉佐野」を将来像として、街づくりの推進を図っております。

りんくうタウン北部に位置する泉佐野フィッシャマンズ・ワールド事業計画地内においては、いずみさの関空マリーナや青空市場、そして昨年の場外舟券発売場「ミニポートピアりんくう」のオープンにより、一層の地域の活性化に繋がるものと確信いたしております。

このように、国内外の交流・流通拠点として高いポテンシャルを有する本市臨海部は、徐々にではございますが進出企業も増え、街づくり、賑わいづくりの観点からも大いに期待されるものでございます。

貴協会におかれましては、この半世紀間に積み上げられたご実績をもとに、今後の更なる発展をご祈念申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



貝塚市長
藤原 龍男

このたびは、大阪府港湾協会が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貝塚の海岸部では古来より、漁業や海運に従事する人々が広範に存在し、林業、農業、水産業の発達とともに物資の集積や海上交通の要地であったことが伝えられています。

産業が近代化された明治後期には、海岸部で窯業、製鋼、紡績などの工場が相次いで建設され、原材料や製品の海上輸送が行われていました。

貝塚の海は遠浅であったため、これらの工場の大半は私設棧橋を設置して製品の積み出しを行っておりました。

このような海と地場産業との密接なつながりは、港湾利用の原点でもあり、また港湾整備に向けての重要な役割を果たしたと言えます。

その後、船舶の大型化や取扱量の増加により、港湾の大規模整備が課題となり、昭和31年には貝塚港建設促進委員会が設立され、昭和39年に本市の悲願でもありました貝塚港の整備に伴う埋立て事業が完成いたしました。

昭和53年3月には、阪南港貝塚地区での海外貿易船の入出港が可能となり、これを機に同年11月に127会員をもって貝塚港湾振興会が設立されました。以後今日に至るまで、本市は、貴協会をはじめ、大阪府や港湾振興会と協力して港湾整備の促進、振興にかかる諸事業に取り組んでまいりました。

またこの間、貝塚地域の都市環境の整備と二色の浜の保全、大阪湾の水質汚濁防止を目的とした二色の浜環境整備事業が大阪府により実施され、約250haの土地が埋立て造成されたことにより、新しい海との関わりの場が形成され、約100社の企業がこの地区内で操業し、本市の産業発展の原動力として重要な位置づけとなっております。

時代は変わっても人と海、港とのかかわりは、形は変われども連綿と続いて行くことでしょう。

今後も阪南港はじめ大阪湾岸の港湾が、魅力ある空間、魅力ある港湾施設としてますます発展していくことを期待しております。



岸和田市長
野口 聖

大阪府港湾協会が設立から本年で50周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、大阪府営8港湾の振興、府域の産業経済の発展と府民生活の向上並びに沿岸市町の都市基盤整備に寄与することを目指し、官民の橋渡し役としての役割を担って、関係機関への要望や府営港湾のPR活動など多種多様な港湾振興事業に取り組み、地域においてなくてはならない組織となっています。これもひとえに歴代会長をはじめ、会員各位のご努力と熱意の賜と敬意を表する次第です。

さて、岸和田は瀬戸内海という有史以来の海上交通の大動脈に面し、多くの人・ものを受け入れ、また送り出してきました。そのため港の重要性は時代を経ても変わりなく、岸和田藩による旧港整備などにもみられるように歴代の為政者は、その充実・発展に取り組んでまいりました。

現代におきましても、鉄工・金属工業等が集積する臨海町の埋立て、木材コンビナートの整備、アメニティー豊かな複合施設を導入し、中心市街地のまちづくりも含有した岸和田旧港再開発などがなされました。

そして今現在、ちぎりアイランドでは、第1期製造業用地で11企業の操業が開始され、第1期保管施設用地のうちの6ha分のインフラ整備・第2期製造業用地の埋立てが進められ、日々その形を変えています。ちぎりアイランドの開発が順調に進んでおりますのも、貴協会が国家機関等と地元との橋渡しに尽力されたことや積極的にポートセールス活動を展開されたことが実を結んだものと感謝しております。

私も、岸和田市長として今後も歩みを止めることなく港湾の機能充実・向上のために大阪府や貴協会をはじめ各関係機関等と連携して尽力してまいる所存でございます。

結びに、貴協会の益々のご発展をご祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。



堺市長
竹山 修身

このたび、大阪府港湾協会が設立50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

この間、貴協会が中心となって関係企業・団体と協力され、港湾拡大に伴う諸問題の解決や港湾整備の充実にご尽力を頂いてまいりましたことに対し深く感謝申し上げます。

本市にとって臨海部は、古くから重要な役割を担ってきました。遠く中世には、堺港が我が国の海外貿易の拠点であり、堺は「東洋のベニス」と謳われるほどの繁栄を見せました。また、明治から大正期にかけての大浜一帯は、海水浴場はもとより、少女歌劇団や水族館、温泉施設などを備え、「東洋一のリゾート」と呼ばれるほどの賑わいをみせていました。

高度成長期には、臨海工業地帯として関西経済の発展を牽引し、現在では、「グリーンフロント堺」に代表される先端企業の集積が進むとともに、物流関係事業所の進出が見られ、本市臨海部の立地優位性が改めて認知されてきたところであります。

また、産業面だけでなく、平成22年にオープンした堺市立サッカー・ナショナル・トレーニングセンター(J-GREEN堺)には、当初の見込みを大きく上回る約63万人の年間来場者があり、全国規模のサッカー大会をはじめ、ラグビーやグラウンドゴルフ等の幅広い種目に利用されております。

さらに平成24年には大規模地震発生時の災害応急活動の核となる「堺2区基幹的広域防災拠点」が整備され、その一角を利用した海釣りテラスを開設するとともに、今春には「堺浜自然再生ふれあいビーチ」をオープンしたところであります。

本市としましては今後とも、産業の持続的発展と臨海部の活性化を図るため、積極的な港湾振興策の推進に努めて参ります。貴協会におかれましては、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、設立50周年を契機とされ、大阪府港湾協会の今後益々のご活躍とご発展を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



泉南市長
向井 通彦

大阪府港湾協会におかれましては、本年めでたく創立50周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

本市の臨海部では関西国際空港の発展に伴い、人的、物的交流が飛躍的に高まり、その対岸であるりんくうタウンにおいては、企業誘致がほぼ完了し、産業経済の中核を担う地域としての機能が徐々に発揮されるようになってきております。

また同時に本市における港湾は、水産物の取扱いを主とする港湾、漁港でございますが、りんくうタウンの東側には岡田浦漁港が、西側には樽井漁港がそれぞれ発展し、いずれも大阪をはじめとする大都市圏への水産物供給拠点としての機能を果たすとともに、市民にとっても食卓を賑わす身近で新鮮な水産物を提供する親しみやすい施設となっております。

しかしながら、近年の自然環境の変化に伴う漁獲高の減少は大きな問題となっており、将来に向けた漁港のあり方を見すえたととき、港と人とのかわりをより身近なものとするをはじめ、港からの情報を発信していくことや、港ならではの特産物を開発すること。また、親水施設としての視点を持った港を検討していくことなどの取り組みが必要となってくるものと考えております。岡田浦漁港においては、水揚げされた水産物に調理加工を施すことで、水産物加工品の独自ブランド化を進め、全国配送できるような地域特産品の開発に取り組むとともに、日曜朝市や地引網体験、関空クルーズといった催しの開催や海鮮バーベキュー施設の充実などの取り組みが進んでおります。また樽井漁港においても臨海部ならではの親水施設、レジャー施設としての取り組みが進んでおり、樽井海水浴場サザンビーチに隣接し、賑わいをみせています。

このようなことから本市の臨海部は、産業経済の拠点としてのみならず観光振興の拠点としての面をも併せ持っており、大きな観光資源として本市が、水・緑・夢あふれる生活創造都市として、またみんなで夢を紡ぐ生活創造都市として発展していく上で欠かすことのできない要素であると考えております。

貴協会の半世紀にわたる港湾地域並びに臨海部の振興へのためみなぎ御努力に最大の敬意を表するとともに、その成果と経験が港湾関係者の財産となり、その恩恵にあずかることにあらためて感謝申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展とご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも関係機関のみなさまには、一層のご指導、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



高石市長
阪口 伸六

大阪府港湾協会が創立50周年を迎えるにあたり、心からお祝い申し上げますとともに、港湾施設の整備、拡充にご尽力いただきました関係機関の各位に対しまして深く御礼申し上げます。

1960年代に企業専用埠頭が8割を占める特定重要港湾堺泉北港が整備され50年余りの時が過ぎました。この間には高度経済成長期の礎であります石油コンビナートなどの重化学工業が臨海部に整備され、日本経済の発展に大きく寄与してきました。

また近年では、LNG発電をはじめとするエネルギー供給事業も稼働し、地域住民へのライフライン、インフラの一翼を担っています。

大阪府港湾協会におかれましては、ポートセールス活動をはじめ種々の事業をもって、府営港湾各港の振興策を推し進め、府域の産業経済の発展と沿岸市町の都市基盤整備にご尽力されているところであります。

特に、本市域内に位置いたします助松埠頭第9号岸壁では、平成18年4月に多目的国際ターミナルとして水深12メートルで暫定供用され、現在大規模な中古車保管ヤードが整備され輸出の拠点となっております。さらに5万トン級の船舶が着岸できる水深14メートルの大水深バースの整備が進められております。

今後も港湾施設のより一層の発展には、大阪府並びに貴協会をはじめ関係機関の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げますとともに、貴協会の今後ますますのご発展、ご隆盛をお祈りいたします。



田尻町長
原 明美

大阪府港湾協会が創立50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

田尻町は大阪府の南部に位置し、人々が暮らしを営む本土部分と、海岸より5キロメートル沖合いに位置する関西国際空港島の一部からなる小さな町です。本土部分の西北部は大阪湾に面し、吉見地区の海岸線は、長く続く松林と砂浜の向こうに波静かな海が広がる風光明媚なところでした。

この海岸も、関西国際空港やマールビーチとなって、その様相は大きく変化いたしました。海岸線の環境が大きく変化した田尻漁港において、漁業協同組合が新たに「日曜朝市」や「漁業体験」などの観光漁業を実施するようになり、町が誇る産業として成長しております。

本町に港湾施設はありませんが、田尻漁港がございます。この漁港は本町にとっても非常に重要な社会基盤と認識しております。田尻漁港の賑わいづくりもあわせて、貴協会と連携・協力して大阪湾周辺の活性化に向けて、尽力して参りたいと考えております。

貴協会におかれましては、今後とも港湾振興の推進になお一層ご協力賜りますと共に、今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



忠岡町長
和田 吉衛

大阪府港湾協会が創立50周年を迎えられるにあたり、謹んでお祝い申し上げますとともに、港湾整備に一方ならぬご尽力を賜っております関係機関の各位に対しまして、衷心より深く感謝申し上げます次第であります。

本町は、高度経済成長期の急速な住宅需要に伴う輸入材の増加に応じ、府下有数の木材産業基地として大きな役割を果たしてきました。

一方で、明治末期から木綿の需要・生産高が増大傾向にあり、大正・昭和初期にわたって大阪府内有数の軽工業地帯でもあったことから、木材産業と繊維産業という2大業種を主力産業としてきました。

そのような中で、忠岡港も全国的な木材需要に対処するために木材コンビナートが建設され、また昭和43年に岸和田港・貝塚港が統合され、木材港と公共埠頭の2つの機能を有する港湾「阪南港」となり、港勢推進に努めているところであります。

また、我が国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生は、多くの人命・家屋だけではなく、工場や事業所等も被災し、企業の生産活動や物流にも多大な影響を与えました。防災に加え減災の観点から人命を最優先に各種対策の見直しが進められている中で、企業活動も例外ではなく、事業を営む場所を臨海部から内陸の高台に移転させたり需要が集まったりするなど、港湾を取り巻く諸情勢は昨今大きく変遷しつつあります。故に、臨海部の産業振興・港湾施設の在り方を抜本的に見直す時期に差し掛かっているといっても過言ではないように思われます。

現在、本町は町域が4.03km²の「日本一小さいまち」と狭隘であり、また我が国の産業構造の変化や内需停滞による輸入木材そのものの減少、更には価格競争の激化も加わり、企業誘致だけではなく産業振興の見地からも非常に厳しい状況下におかれています。

しかしながら、港は地域産業の発展並びに町民生活の向上につながる重要な都市基盤の1つであることから、漁業協同組合を中心とした忠岡みなとマーケットの開催や商工会と連携して地元の農水産物を使った町民料理教室などを通じ、地域活性化に努めております。今後も臨海部の振興発展並びに地域経済の活性化に向け、引き続き港湾振興事業に取り組んで参りたいと存じます。

最後に、大阪府及び貴協会をはじめ、関係機関のご協力をいただきながら、互いに叡智を出し合い、将来を見据えた長期的な展望のもと、益々のご活躍に期待する次第であります。



阪南市長
福山 敏博

大阪府港湾協会様におかれましては、このたび創立50周年を迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。今日に至るまでの長きにわたり、府域港湾の振興・発展に多大なるご尽力を頂いておりますことは、臨海部に位置する都市として誠に心強く、感謝申し上げる次第です。

さて、阪南市の海について考えますと、「食」という視点では、大阪府内では珍しい海苔の養殖がおこなわれており、その海苔やいかなご、ちりめんを扱う水産加工業者があります。

また「観光」という視点では、春に咲き誇る山中溪の桜、秋ににぎわう市内20町のやぐら・秋祭りと並んで、夏の海水浴・ビーチバレーを欠かすことはできません。このように、本市にとって「海」は、食文化や産業、観光を支える大きな要素であり、市民が憩い・就労し・交流する場ともなっております。

平成23年度末に作成しました本市のまちづくりの羅針盤となる「阪南市総合計画」においても、地域の水産加工品の地産地消、港や漁業の振興を掲げ、また海を含め自然環境との共生や観光資源を通しての市に対する愛着の醸成や来訪者へのおもてなしを謳っているところです。

この海への結節点となっているのが、尾崎港、西鳥取漁港、下荘漁港の各港です。これらの港は、関係各機関のご尽力で整備され、今日に至っております。今後も皆様と共に、本市域各港の発展に努めてまいりたいと存じますので引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会をはじめ関係各機関の皆様のご今後一層のご活躍・ご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



岬町長
田代 堯

大阪府港湾協会が創立50周年を迎え、また、記念誌を発行されますことを心からお祝い申し上げます。

今、海外では大型客船を用いた長期間の船旅、いわゆる世界一周「ラグジュアリー・クルーズ」が盛況です。世界中では2000万人を超える需要があり、大型客船の数は20年前の290隻から500隻にまで増えています。さらに、手頃な料金で楽しめる観光クルーズも海外では定着しており、カリブ海では飛行機でマイアミまで行き、港から数日間の観光クルーズに出かける「エア&クルーズ」のスタイルが注目を集めています。日本でも船旅の楽しさをアピールし、港の賑わいづくりにチャレンジすることは、内外からの観光客誘致に大きな効果をもたらすものと思われれます。

さて、大阪府が管理する指定港湾である深日港は、関西国際空港から30分圏内にあり、南海電鉄「深日港駅」は大阪市内を結んでいます。

関空を利用する海外旅行者が、深日港を起点に淡路島など大阪湾を南まわりで船旅をする「エア&クルーズ」を定着させることができれば、関空の南側地域のより一層の活性化に寄与するものと思われれます。

また、深日港は、大阪湾の入口に位置し、その地勢から南海トラフ地震での想定津波高は、3.6mと他の港より低く、災害時での大阪湾の各港湾の復旧や航路の保安を担う拠点として活用することもできます。

このように深日港は、様々な機能を担うことができ、今後、整備と活用が不可欠ですが、この港の整備にあたっては、「統合型リゾート」の手法を活かすことができるのではないのでしょうか。「統合型リゾート」の要素に「エア&クルーズ」と大阪湾の減災拠点施設を加えることで、民間投資による整備や維持管理が可能となるのです。

深日港の活用は本町のみならず、大阪府全体の課題です。より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

大阪府港湾協会 ～創立50年の回顧～

大阪府営港湾の歩みと大阪府港湾協会設立の背景と経緯

1.大阪府営港湾の発展経過

大阪府の約70kmの海岸には、かつて10の府営港湾が白砂青松の中に散在した。(現在は、港湾の統合や関西国際空港の完成に伴う泉州港の誕生などによって8つの府営港湾が存在する。)

これらの港湾は、古い歴史を持ちながら国土軸から離れていることや単調な遠浅海岸であること、さらに明治、大正年間に商権が大阪、神戸に移るなど、地理的、地形的条件や社会経済的条件により、その地位は低く地方の一船溜り或は漁港としての役割を果たすにとどまっていた。

・産業基盤強化のための港湾整備

戦後の混乱期を経て昭和30年代に入ると、わが国の積極的な経済政策の遂行により、産業・経済は自立より発展へと着実な成長を遂げつつあったが、阪神工業地帯は中小企業主体の産業構造であるため、その成長率が他の工業地帯に比して著しく低く、関西経済の地盤沈下として憂慮されていた。

このため、大阪府では産業体質の改善策として、基幹産業の誘致を骨子とする臨海工業地帯の造成をはじめ、下記の大規模プロジェクトを相前後して泉州海域に展開した。

- 堺泉北臨海工業地帯造成計画 重化学コンビナート
- 岸和田木材コンビナート計画 原木輸入～製品～販売の一貫システム
- 泉佐野食品コンビナート計画 原材料輸入～食品加工～流通加工の一貫システム
- 貝塚港修築及び工業用地造成計画
- 岸和田臨海工業用地造成計画

このような港湾と直結する産業基盤強化策が急ピッチで推進され、泉佐野以北の海域は高度利用がはかられ、港湾規模を飛躍的に拡大し、港湾の統廃合を行って堺泉北港及び阪南港は、それぞれ特定重要港湾、重要港湾として役割を担うこととなった。

堺泉北臨海工業用地の造成をはじめこれらの施策は、泉州沖にわが国所有のポンプ式浚渫船の1/3を集め、夜を日についで埋立工事が進められ、昭和40年代前半には鉄鋼、石油などの基幹産業並びに関連企業の誘致を決定し、大型航路、泊地、専用岸壁などの港湾施設を整備して操業期に推移した。

・商港機能の整備と総合港湾への脱皮

昭和40年代に入ると大阪湾沿岸並びに背後圏の産業の興隆と都市の発展は目覚ましく、外国貿易の振興とも相俟って、公共埠頭の整備拡充並びにコンテナ、カーフェリー等の輸送革新への対応が緊急の課題となった。

このため、昭和42年には運輸省第三港湾建設局はじめ大阪湾内の港湾管理者が協議を行い、「大阪港湾計画の基本構想」を策定し、湾内各港湾の秩序ある整備が図られた。

大阪府の港湾は、前述の経緯により臨海工場と結びついた工業港、専用埠頭機能の整備が先行し、商港機能の整備拡充が立遅れたことは否めないが、これを契機として、はじめて堺泉北港、阪南港に大規模な近代的商港埠頭計画を立案し、商港、工業港が融和し、バランスのとれた機能を持つ総合港湾に脱皮すべく以後は、公共埠頭の整備に重点が移された。

整備計画は昭和43年、国の第3次港湾整備5ヶ年計画により実施され、以来、数次に亘り計画の改訂を行いながら着実に整備が進められていった。その結果、大阪湾ベイエリアの一翼を担う総合港湾として、関西経済の発展に寄与すべく商港機能の確保が徐々に図られることとなった。

しかしながら、その後、社会経済情勢の変化による経済のグローバル化や産業の空洞化の進展等に伴い、高度成長期に関西経済の発展を牽引してきた重厚長大産業を中心とする臨海工業地帯において、大規模な低未利用地が発生した。

これを受け、平成4年、大阪湾ベイエリアの総合的開発整備を国家的プロジェクトとして推進する「大阪湾臨海地域開発整備法」が制定され、平成8年の「大阪ベイエリア整備計画」策定によって中核的施設の整備等が進められることとなった。また平成6年には関西国際空港が開港し、それに併せて泉州地域の交通網が格段に充実したものとなった。

その結果、大阪府の港湾においても大阪都心部への近接性を活かした企業誘致を展開するとともに、堺泉北港の助松埠頭においては、府営港湾初のガントリークレーンを有する多目的国際ターミナルが供用し、貨物のコンテナ化への対応が実現した。

また、輸出中古自動車等を取り扱う自動車専用船の利用も行われ、従来のフェリー航路に加えて内航RORO定期航路も開設されている。商港機能の核となるべく総合物流機能が助松埠頭において確立し、阪南港においても新貝塚埠頭に初の一般外貿埠頭を整備するなど、総合港湾としての機能が充実された。

・近年の動き

臨海工業地帯の低未利用地では、その後、行政・民間が一体となった取り組みが行われ、大手電機メーカーによる堺浜(堺2区)での液晶パネル・太陽電池工場といった先端技術産業に加えメガソーラーの相次ぐ立地などにより、利用転換が進んできている。

現在、新たに整備中の泉大津フェニックスや阪南2区においても、岸壁などの港湾施設整備と併せ、物流・産業の企業ニーズに適切に応えるべく、着実に事業を進めているところである。

なお、平成23年に港湾法が改正され港湾の港格が見直される中、堺泉北港は従来の「特定重要港湾」から「国際拠点港湾」に改められた。

今後、TPPなどにより世界経済のグローバル化のさらなる進展が予測される中、物流・産業活動を支える基盤としての大阪府の港湾が果たすべき役割は、関西経済の発展にとって今後、益々重要なものとなってくるであろう。

2.協会設立の背景と経緯

・設立の背景

港湾の発展経過に見られるように、大阪府の港湾は、昭和30年代後半から昭和40年代にかけて僅々10年余りの歳月で急激に拡大され、わが国有数の臨海工業地帯となった。

したがって、大型外航船出入港のための諸施設並びに外貿貨物取扱いのための手続上の諸機能も開港指定にはじまって、ゼロから整備する必要があった。

すなわち、船舶航行安全上必要な航路標識、信号所、巡視船等の設置配備や海上保安業務担当の出先機関の強化、さらには税関、検疫、動植物検疫、出入国管理等、国家出先機関の設置強化について、事務レベルの要望折衝が続けられた。

これらは、立地企業の操業にあわせて実現する必要があったため、より強力な推進体制が必要と官民一体の対応が迫られた。

・設立の経緯

この様な状況の中で、昭和38年10月28日、大阪市内の国際ホテルにおいて、大阪府港湾協会設立発起人会が開催され、設立趣意書、会則、事業予算、事業計画、設立総会日程等が協議決定された。

<設立発起人>	
堺地区	新洋海運(株) 八幡製鉄(株) 堺製鉄所 大阪瓦斯(株) 関西電力(株) (株)大運 セントラル硝子(株) 日立造船(株) 北坂石油(株)
泉北地区	ゼネラル石油(株)
岸和田地区	一心組運輸(株) 岸和田港湾荷役(株)
公共団体	大阪府 堺市

発起人会による緒準備、調整を経て設立総会は、昭和38年12月10日多数の参加者を得て、国際ホテルで開催され、会則その他の案件を決議、承認し、初代会長に大阪府副知事 高田敏一氏、副会長に阪口倉庫(株)社長 阪口英三氏、ゼネラル石油(株)取締役 国分一孝氏を選任し、ここに「大阪府港湾協会」は発足した。

大阪府港湾協会設立趣意書

大阪府が港湾課を設置いたしまして、本年は17年目に当たります。その間、多数の港湾の整備に努め現在特定重要港湾1港、地方港湾9港を管理するに至りました。

戦後わが国の産業構造の変化に伴い近畿経済圏の構造改善が要望されることとなり、大阪府におきましては、いち早く堺地先に重化学工業用地を造成し近畿経済圏体質改善の拠点として再出発し、幸いにして昨年7月特定重要港湾に指定されるに至りました。これを契機として、泉州海岸の臨海地域の開発が積極的に推進されることとなり、木材港、漁港コンビナート等の建設が計画されることとなりましたが、これらの港湾が、機能を十分に達成いたしますためには、その基本的整備と相まって

1. 信号所の設置
2. 浮標灯の整備
3. 保安監部要員の獲得
4. 航路浚渫
5. 推進の検測、海図の作成
6. 臨海工業地の港湾水域占用使用の相互調整
7. 埠頭、倉庫、物揚場等の合理的運用等の諸問題を迅速確実に処理調整することによって、初めてその目的を達成するものと存じます。

つきましては、これら事業を解決するために港湾各部門の衆知と総力の結集態勢を確立するため、その推進母体として、新たに関係者を打って、一丸とする「大阪府港湾協会」を設立せんとするものであります。

3. 協会の目的と事業

協会は、貿易、海運、港運、倉庫、臨海工業等の港湾関係業者及び普通地方公共団体等で構成し、その目的及び事業は、会則第3条、第4条で以下のように定められた。

会則 第3条

本会は、府下各港の振興対策を強力に推進するとともに、会員相互の連絡懇親を図ることを目的とする。

会則 第4条

本会は、前条の目的を達するため、次の事業を行う。

- (1) 港湾の施設管理等に関し、必要な事項の調査研究及び建議
- (2) 港湾事業の推進
- (3) 海岸事業の推進
- (4) 本会の目的に適合する団体への参加及び協力
- (5) 港湾に要する資料の蒐集
- (6) 港湾に関する講習会及び座談会等の開催
- (7) 前各号の外、本会の目的を達成するための必要な事項

大阪府港湾協会の事業活動

1. 協会の運営

協会の会務は、「理事会」において執行され、「総会」は毎年会員多数の出席を得て開催され、会務の報告、収支予算並びに決算等、会の重要事項の承認、決議を行った。

昭和50年度からは、特定会務に関する会長の諮問機関として「運営委員会」を設置して、特に、事業活動に関する答申がなされ、会の活動強化がはかられている。

歴代会長、副会長、事務局長及び港湾局長は別表のとおりである。

また、昭和59年度から堺泉北港及び阪南港の振興を強力に推進し、併せて関係行政機関相互の連絡調整を密にするため、当該港湾にそれぞれ港湾振興連絡協議会が設置されている。

■歴代会長・副会長・事務局長・港湾局長

年度	会長	副会長				事務局長	港湾課長 (SS9~港湾課長)
昭和39年度	高田 敏一 (大阪府副知事)	阪口 英三 (阪口倉庫株式会社)	国分 一孝 (セネラル石油株式会社)			大塚 哲夫	牧野 末広
昭和40年度	高田 敏一	阪口 英三	国分 一孝			大塚 哲夫	牧野 末広
昭和41年度	高田 敏一	阪口 英三	佃 豊之 (セネラル石油株式会社)			小川 正一	牧野 末広
昭和42年度	高田 敏一	阪口 英三	佃 豊之			小川 正一	牧野 末広
昭和43年度	高田 敏一	阪口 英三	佃 豊之			小川 正一	吉川 弘
昭和44年度	高田 敏一	阪口 英三	佃 豊之			松田与三市郎	吉川 弘
昭和45年度	高田 敏一	阪口 英三	宇野 善夫 (セネラル石油株式会社)	茶谷 徳松 (泉大津市長)		松田与三市郎	吉川 弘
昭和46年度	高田 敏一	阪口 英三	宇野 善夫	茶谷 徳松		松田与三市郎	吉川 弘
昭和47年度	山崎 政男 (新洋海運株式会社)		金原 博 (興亜石油株式会社)	茶谷 徳松	中沢光太郎 (岸和田市長)	大賀 繁夫	吉川 弘
昭和48年度	山崎 政男		金原 博	茶谷 徳松	中沢光太郎	大賀 繁夫	川畑 博信
昭和49年度	山崎 政男		朝山 晴夫 (興亜石油株式会社)	茶谷 徳松	原 昇	大賀 繁夫	川畑 博信
昭和50年度	山崎 政男		朝山 晴夫	茶谷 徳松	原 昇	中林 斉	川畑 博信
昭和51年度	山崎 政男		幅 一弘 (興亜石油株式会社)	茶谷 徳松	原 昇	中林 斉	川畑 博信
昭和52年度	山崎 政男		幅 一弘	茶谷 徳松	原 昇	堀内 浩	川畑 博信
昭和53年度	山崎 政男		吉成 雄一 (興亜石油株式会社)	茶谷 徳松	原 昇	堀内 浩	船谷 栄二
昭和54年度	山崎 政男		吉成 雄一	茶谷 徳松	原 昇	堀内 浩	船谷 栄二
昭和55年度	山崎 政男		吉成 雄一	仲井 眞二	原 昇	宮野 行雄	船谷 栄二
昭和56年度	山崎 政男		吉成 雄一	仲井 眞二	原 昇	宮野 行雄	吉村 源逸
昭和57年度	山崎 政男		斉藤 慎治 (興亜石油株式会社)	仲井 眞二	原 昇	松井 岩夫	吉村 源逸
昭和58年度	山崎 政男		斉藤 慎治	仲井 眞二	原 昇	松井 岩夫	吉村 源逸
昭和59年度	山崎 政男		斉藤 慎治	仲井 眞二	原 昇	和田 悟	岡本 皓司
昭和60年度	山崎 政男		斉藤 慎治	仲井 眞二	原 昇	和田 悟	岡本 皓司
昭和61年度	山崎 政男		斉藤 慎治	仲井 眞二	原 昇	小西 健夫	岡本 皓司
昭和62年度	川平恵一郎 (前大阪府臨海センター理事長)		瀬川 雅夫 (興亜石油株式会社)	仲井 眞二	原 昇	小西 健夫	喜多 樹
昭和63年度	牧野 文雄		瀬川 雅夫	仲井 眞二	原 昇	町野 雅俊	喜多 樹
平成1年度	牧野 文雄		中村 保 (コスモ石油株式会社)	亀岡 数一	原 昇	町野 雅俊	喜多 樹
平成2年度	牧野 文雄		中村 保	亀岡 数一	原 昇	町野 雅俊	村田 正也
平成3年度	牧野 文雄		久保田健三 (セネラル石油株式会社)	亀岡 数一	原 昇	森口 誠	村田 正也
平成4年度	牧野 文雄		村本 慎一 (興亜石油株式会社)	亀岡 数一	原 昇	野口 正夫	梅原 悟
平成5年度	牧野 文雄		田中 秀勝 (興亜石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	野口 正夫	梅原 悟
平成6年度	牧野 文雄		福井 朗 (コスモ石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	野口 正夫	山本 巖
平成7年度	牧野 文雄		福井 朗	茶谷 輝和	原 昇	阪口幸史郎	山本 巖
平成8年度	牧野 文雄		西村 博顕 (セネラル石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	阪口幸史郎	池野 誓男
平成9年度	牧野 文雄		西村 博顕	茶谷 輝和	原 昇	植村 博	池野 誓男
平成10年度	牧野 文雄		熊谷 篤司 (興亜石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	植村 博	池野 誓男
平成11年度	牧野 文雄		大道寺 宏 (興亜石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	植村 博	松本 弘
平成12年度	牧野 文雄		瓜生 通憲 (コスモ石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	中田 秀則	松本 弘
平成13年度	牧野 文雄		瓜生 通憲	茶谷 輝和	原 昇	中田 秀則	早川 克典
平成14年度	牧野 文雄		岩崎 正洋 (東亜セネラル石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	中田 秀則	早川 克典
平成15年度	牧野 文雄	池野 誓男 (堺泉北埠頭株式会社)	岩崎 正洋	茶谷 輝和	原 昇	加太 久雄	横山 隆司
平成16年度	牧野 文雄	池野 誓男	前原 義彦 (新日本石油株式会社)	茶谷 輝和	原 昇	中田 憲正	横山 隆司
平成17年度	牧野 文雄	池野 誓男 (社大阪府タグ事業協会会長)	鳴瀧 宣夫 (新日本石油株式会社)	神谷 昇	原 昇	中田 憲正	小川 謙二
平成18年度	牧野 文雄	池野 誓男	丸川 元 (コスモ石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	澤野 均	小川 謙二
平成19年度	牧野 文雄	池野 誓男	藤岡 大明 (コスモ石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	澤野 均	古川 博司
平成20年度	金盛 弥	池野 誓男	小野田 泰 (東亜セネラル石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	大門 芳一	古川 博司
平成21年度	金盛 弥	池野 誓男	小野田 泰 (東亜セネラル石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	宮本 信治	中尾 恵昭
平成22年度	金盛 弥	池野 誓男	藤岡 大明 (コスモ石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	宮本 信治	中尾 恵昭
平成23年度	金盛 弥	池野 誓男	佐藤 薫 (コスモ石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	宗野 茂	井上 博睦
平成24年度	金盛 弥	池野 誓男	竹下 嘉昭 (大阪府石油株式会社)	神谷 昇	野口 聖	宗野 茂	井上 博睦

2. 要望活動

事業活動は、理事会において年度計画が策定され、これに基づき活発に行われたが、特に昭和40年代前半においては、当時の港湾事情を繁栄して、港湾機能の向上に重点が置かれ、国の行政機関に対する要望活動が強力に展開された。

要望項目は多岐にわたり、従って、要望先も在阪出先機関、本省、国会等々、多方面に対して行われた。

解決課題として、当時かかっていた問題は、

- 港域の拡張
- 港格の昇格
- 海上保安施設の整備
- 水路測量と海図の作成
- 関係行政機関の設置と強化

税関、海運局(現・運輸局)、検疫所、植物防疫所、動物防疫所、入国管理事務所、海上保安署 等

などであった。

これら熱心な訴えは、関係先の理解を得て、港湾諸条件整備に反映し、以後逐次体制を整えてきた。

このような要望活動は、その後も後発港湾としての課題解決のため行われて来たが、特に国家予算編成時の港湾予算獲得に際しては、日本港湾協会の「港湾及び港湾海岸整備促進運動」に積極的に参加し、全国の港湾関係者と行動をともにしてきた。

現在も、沿岸各市町や地元港湾振興会とともに、在阪国家機関等及び大阪府に対して要望活動を積極的に実施している。

3. 会報誌「大阪府のみなど」

協会設立当初から、協会の刊行物として「港湾ニュース」を発行して来たが、昭和61年度から内容をより充実するために「大阪府のみなど」として編さんし、府営港湾並びに協会のホットニュースを速報すると共に港湾計画、港湾予算、港湾貨物の取扱実績などを掲載して、会員に諸情報を伝えている。

4. 講演会及び港湾視察

港湾の開発が進み、順次施設の供用が開始されたが、使用する側も管理する方も港湾活動に携わるすべてのものが、港湾についての必要な知識やルールを身につけ、港の運営が円滑に運び、港湾機能が十分に発揮出来るよう、港湾及び背後圏に関する講演会や他港湾の視察が毎年実施されている。

創立当初からの他港湾視察の実施経過は、別表のとおりである。

5. ホームページによる情報提供

平成18年度より、府営港湾のPRなどを広く情報提供することを目的に、府営港湾振興WEBサイト「FRIEND&SHIP」を開設し、セミナーの実施等の情報を掲載するなど、運営・更新を行っている。

6. セミナーの実施

昭和62年度より、大阪府から府営港湾振興業務について一部受託し、平成7年度より受託事業としてポートセミナーを、毎年度、大阪と東京もしくは地方で2度、府営港湾の振興を目的として実施している。

また、平成15年度からは堺泉北港の国際化促進を図るため、「国際化セミナー」を実施しており、近年では国際経済に重点を置き、「国際経済セミナー」として、国際経済の分野において第一線で活躍する方を講師に招いている。

■港湾視察

年度	実施日	視察地	年度	実施日	視察地
昭和39年	昭和40年3月23日～24日	名古屋港	平成1年	平成1年11月1日～2日	新潟港
40年	昭和40年11月24日～25日	水島港・高松港	2年	平成2年11月1日～2日	伏木富山港
41年	昭和41年11月1日～2日	伏木富山港	3年	平成3年11月7日～8日	清水港
42年	昭和42年11月21日～22日	鹿島港	4年	平成4年11月5日～6日	下関港
43年	昭和43年11月21日～22日	清水港	5年	平成5年10月28日～29日	横浜港
45年	昭和45年11月25日～26日	松山港	6年	平成6年11月10日～11日	千葉港
46年	昭和47年3月9日	高知港	7年	平成7年11月1日～2日	仙台港
47年	昭和47年10月30日	境港	8年	平成8年11月26日～28日	鹿児島港
48年	昭和48年11月15日	北九州港	9年	平成9年10月30日～31日	新潟港
49年	昭和49年10月31日	仙台港・塩釜港	10年	平成10年11月9日～10日	川崎港
50年	昭和50年11月5日～6日	長崎港	11年	平成11年11月3日～5日	博多港
51年	昭和51年11月5日～6日	博多港	12年	平成12年11月30日～12月1日	常陸那珂港
52年	昭和52年10月27日～28日	新潟港	13年	平成13年11月8日～9日	細島港
53年	昭和53年11月9日～11日	北九州港	14年	平成14年11月11日～12日	仙台塩釜港
54年	昭和54年11月15日～16日	清水港	15年	平成15年11月6日～7日	横浜港
55年	昭和55年10月23日～24日	徳島港	16年	平成16年10月28日～30日	北九州港・下関港
56年	昭和56年10月21日～24日	唐津港	17年	平成17年11月15日～16日	伏木富山港
57年	昭和57年10月28日～29日	松山港	18年	平成18年11月8日～9日	名古屋港・四日市港
59年	昭和59年10月22日～24日	下関港	19年	平成19年11月1日～2日	川崎港・横浜港
60年	昭和61年2月21日～22日	名古屋港	20年	平成20年11月20日～21日	清水港・御前崎港
61年	昭和62年1月22日～23日	千葉港	21年	平成21年9月17日～18日	茨城港(常陸那珂港区)
62年	昭和62年11月26日～27日	横浜港・東京港	22年	平成22年8月25日～27日	北九州港・博多港
63年	昭和63年11月30日～12月2日	長崎港	23年	平成23年9月8日～9日	京都舞鶴港
			24年	平成24年9月20日～21日	細島港・宮崎港

写真で振り返る大阪府営港湾



■堺泉北港



堺港区:昭和44年

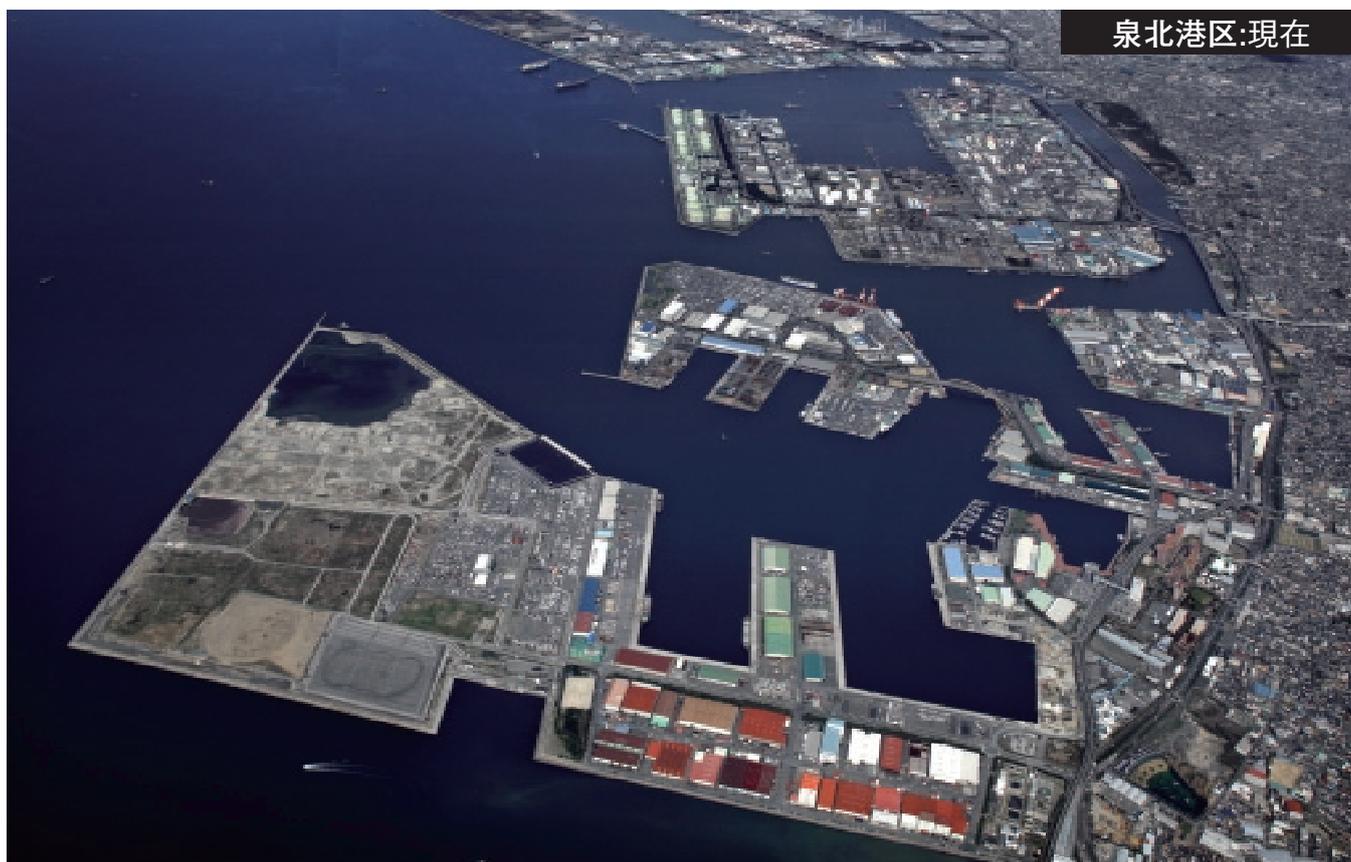


堺港区:現在



泉北港区:昭和44年

※泉北1区を大阪側から撮影

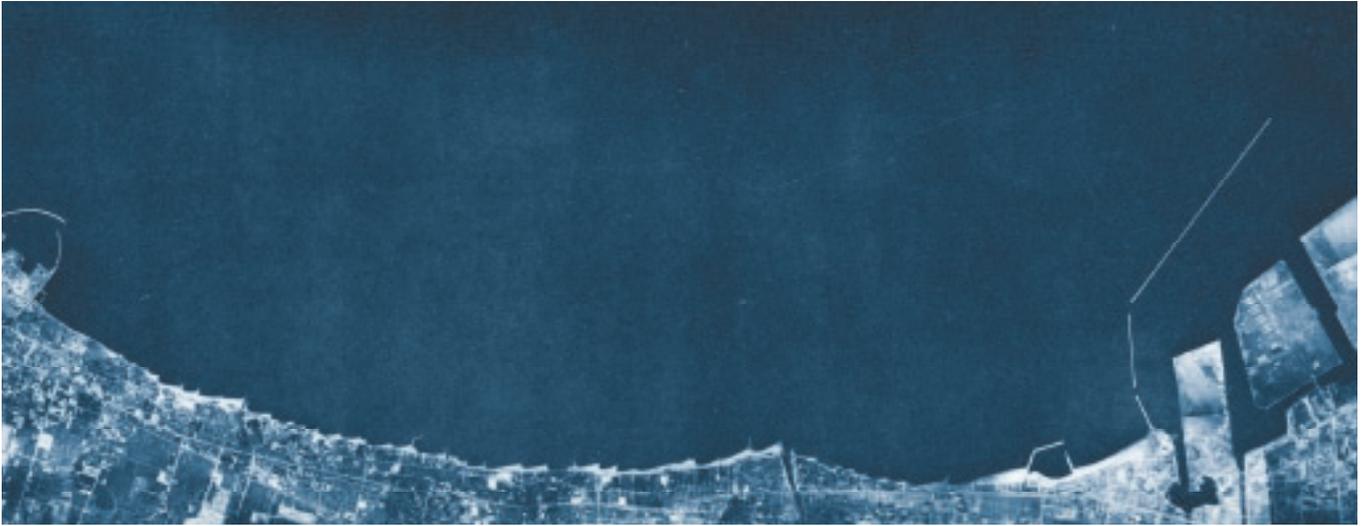


泉北港区:現在

※和歌山側から撮影

■写真で振り返る大阪府営港湾

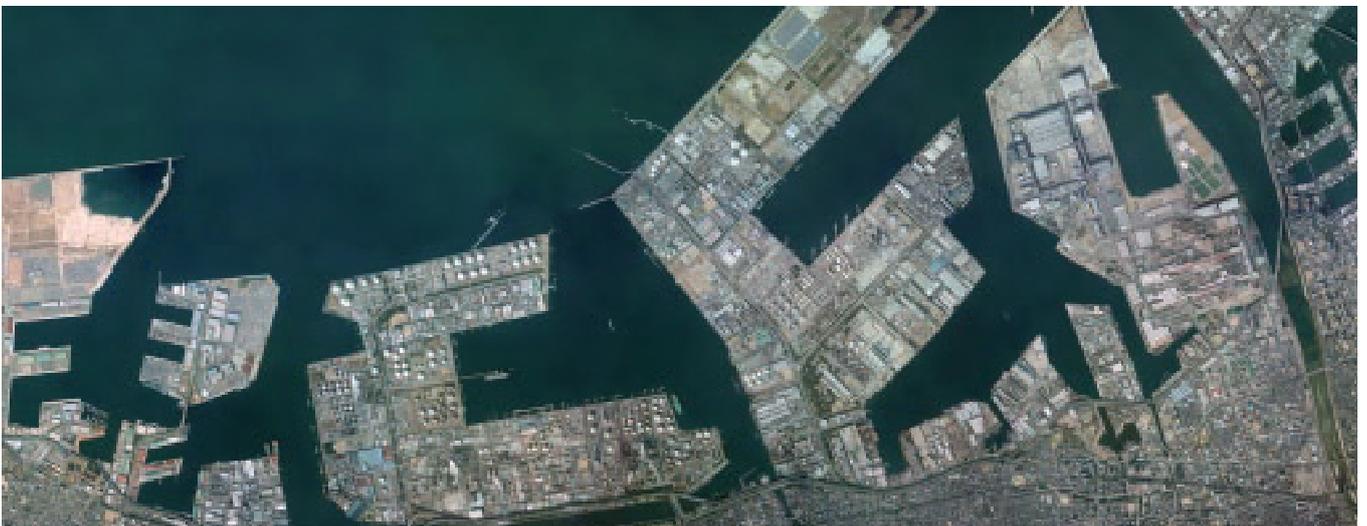
■堺泉北港 沿岸図の変遷



昭和32年



昭和43年



現在



■ 阪南港

PORT OF HANNAN
OSAKA BAY



昭和44年

※木材コンビナートと鉄工団地を大阪側から撮影

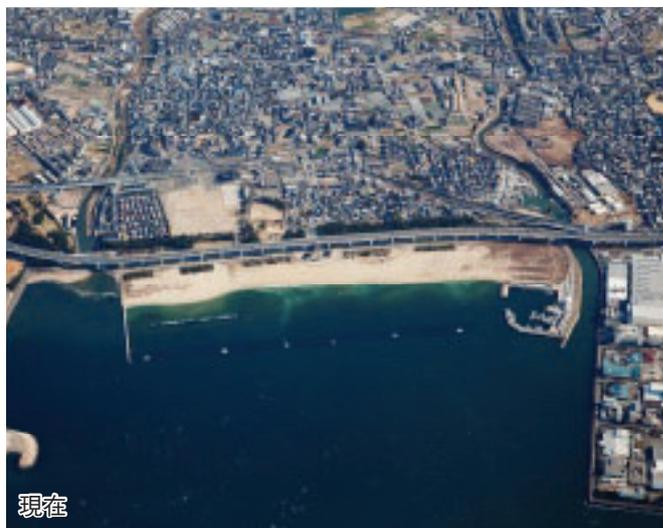
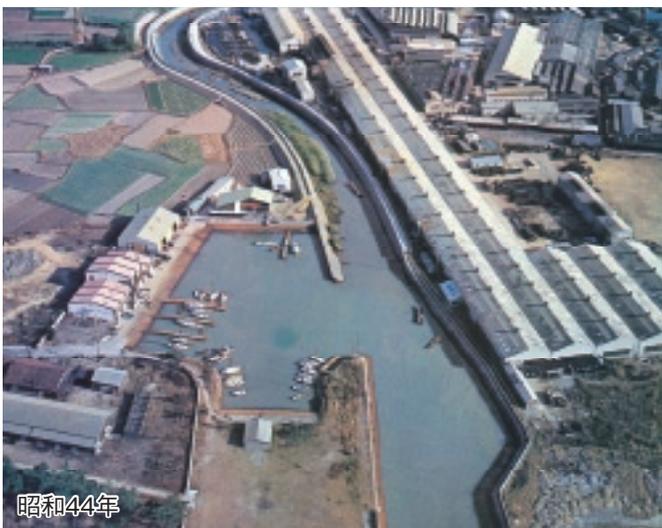


現在

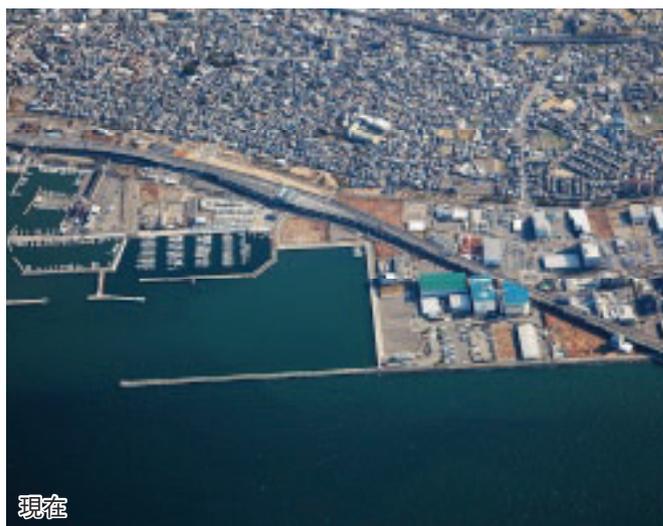
※和歌山側から撮影

■写真で振り返る大阪府営港湾

■二色港



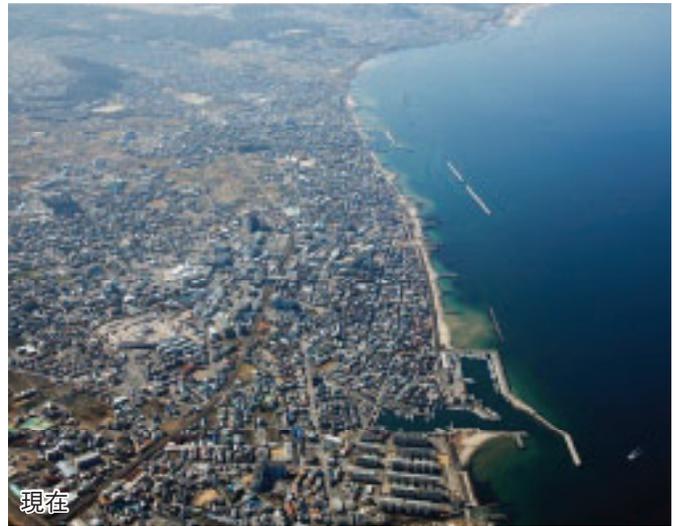
■泉佐野港



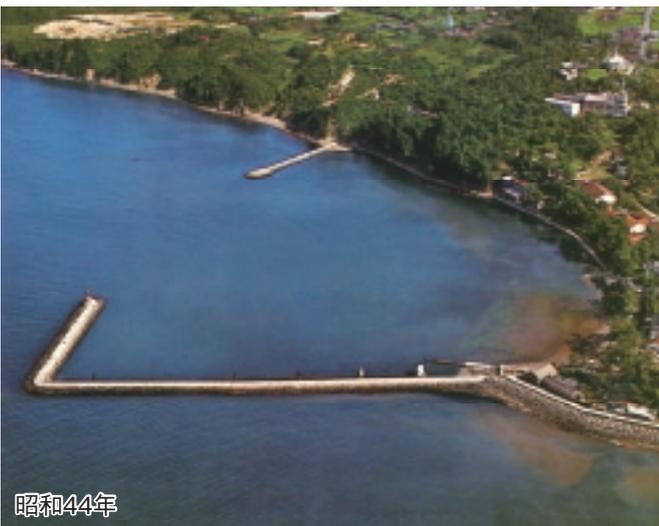
■泉州港



■尾崎港



■淡輪港



■深日港



■写真で振り返る大阪府営港湾



堺泉北港の概要

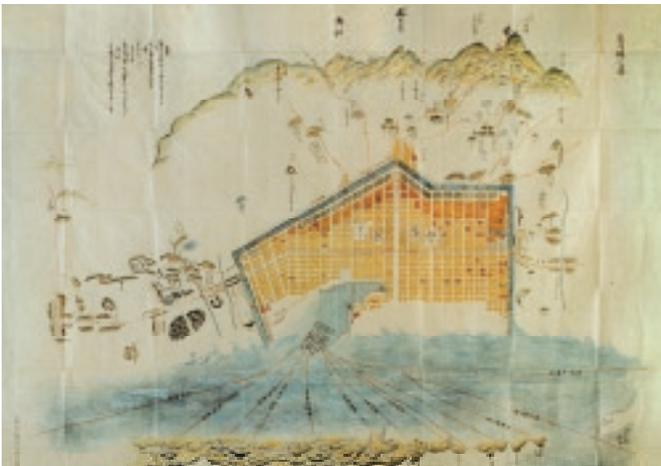
堺泉北港は、大阪湾東部沿岸に位置し、堺市、高石市、泉大津市の3市、約14kmにわたってまたがる港湾です。堺泉北港の前身は、古い歴史を有する堺港と近年整備された泉北港です。

堺港の歴史は、源平合戦時代に起源し、南北朝時代を経て対明貿易の中心地として発展しました。室町、安土・桃山時代には朱印船や南蛮船等の往来が活発となりましたが、徳川幕府の鎖国主義とともに衰微しました。

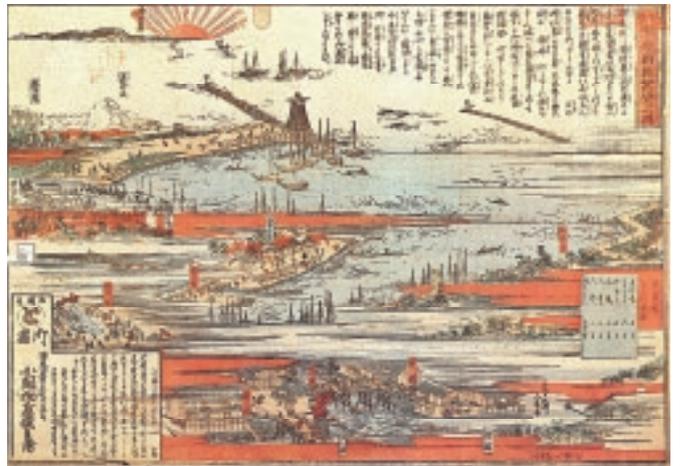
その後、昭和9年に関西を襲った室戸台風を受け、昭和11年に工業港修築の計画が始まり、昭和30年代前半から造成された堺泉北臨海工業地帯の発展に伴い、堺港・泉北港は近代的な工業港として大きな成長を遂げました。昭和44年に両港は統合され、現在は国際拠点港湾として、大阪湾ベイエリアの一翼を担う総合港湾として日本経済の発展に寄与しています。



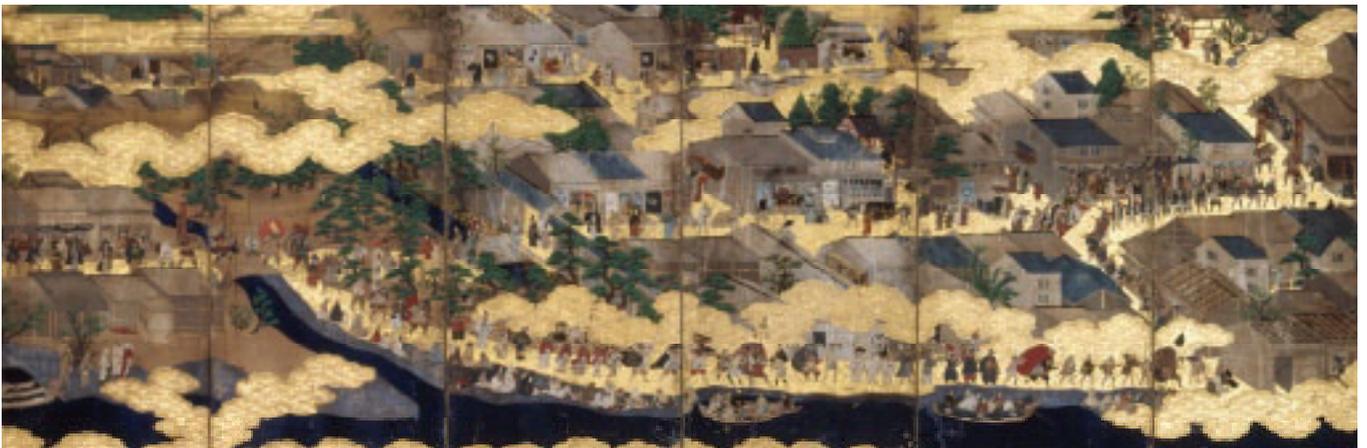
南蛮屏風「南蛮交易之図」(16世紀中頃 戦国・安土桃山時代の堺港図模写 堺市所蔵)



泉州堺之図(1695年 江戸時代 元禄8年 堺市所蔵)



堺港新地繁栄之図(嘉永年代 堺市所蔵)



堺市指定有形文化財 住吉祭礼図屏風(右隻)(提供:堺市博物館)



明治時代の旧堺燈台(堺市中央図書館贈)



旧堺燈台(堺市中央図書館贈)



堺大浜蛤取り(堺市中央図書館贈)



大正時代の大浜(堺市中央図書館贈)



大正時代の高師浜海水浴場(写真提供:高石市)



浜寺での地引網の風景(写真提供:高石市)



戦前の泉大津旧港(写真提供:泉大津市) 右奥の建物がある場所は現在の泉大津市東港公園付近



大浜公会堂(堺市中央図書館贈)

■写真で振り返る大阪府営港湾



昔なつかし潮湯のあった当時の大浜公園



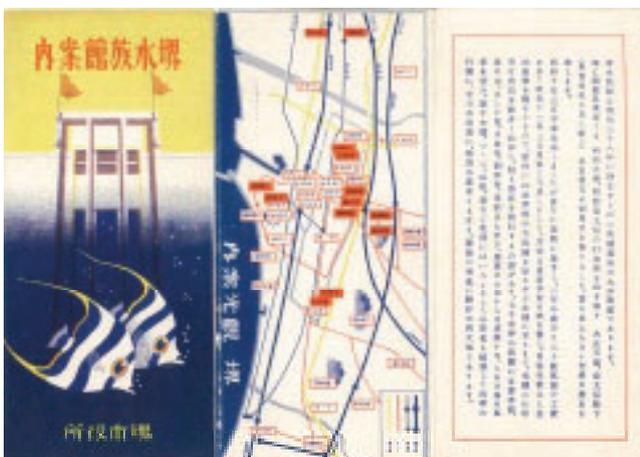
大浜潮湯及び家族湯(写真提供:堺市中央図書館贈)



昭和初期の堺旧港



堺水族館全景(写真提供:堺市中央図書館贈)



堺水族館案内図表面(堺市中央図書館贈)



堺水族館案内図中面(堺市中央図書館贈)



阪南港の概要

阪南港は、大阪湾東部沿岸のほぼ中央に位置し、泉北郡忠岡町、岸和田市及び貝塚市の地先、約7kmにわたってまたがる港湾です。

阪南港の前身である、忠岡港、岸和田港及び貝塚港はそれぞれ特色ある歴史を重ねながら発展してきましたが、特に貝塚港は、既に安土桃山時代には堺港と共に西国諸国との間を行き交う千石船で賑わう商港として知られていました。

その後、この地域は明治から大正にかけて日本でも有数の紡績地帯として発展しましたが、近年に至り、全国的な木材の需要に対処するとともに防災面も考慮して、昭和41年には木材コンビナートを忠岡町と岸和田市地先に建設しました。これを契機として、昭和43年に忠岡港、岸和田港及び貝塚港の3つの港湾が統合され、重要港湾阪南港が誕生し、現在は、積極的な港湾振興及び背後地域と整合性を持たせた様々な計画が進められています。



明治時代の岸和田旧港の姿を描いたとされる絵図



昭和30年代初頭の忠岡港(写真提供:忠岡町)



昭和初期の岸和田港

(写真出展:岸和田港振興協会発行「30年のあゆみ」より)



昭和30年代初期の岸和田港全景



昭和初期の貝塚の浜

(写真出展:貝塚市教育委員会発行「貝塚百年のかおり」より)



貝塚港工業用地埋立竣工

(写真出展:貝塚市教育委員会発行「貝塚港今昔」より)

■大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)

年度	月日	事項	
昭和38年	10.28	協会設立発起人会開催	
	12.10	設立総会	
		第1回理事会	
昭和39年	5.25	第2回理事会(事務局規定制定)	
	6.12	昭和39年通常総会(監事変更)	
	10.2	第3回理事会	
	10.20	「港湾ニュース」第1号発行	
	12.7	第1回港湾講演会(檢疫行政の概要・外貿船の税関関係入出港手続・港則法・出入国管理事務について)	
	12.15	「港湾ニュース」第2号発行	
昭和40年	2.20	「港湾ニュース」第3号発行	
	3.23~24	名古屋港視察	
	4.30	「港湾ニュース」第4号発行	
	6.15	第4回理事会	
	6.23	昭和40年度通常総会(役員変更)	
	7.20	「港湾ニュース」第5号発行	
	9.30	「港湾ニュース」第6号発行	
	10.12	第5回理事会	
	11.24~25	水島港・高松港・徳島フェリー視察	
	12.15	「港湾ニュース」第7号発行	
	昭和41年	6.17	第6回・第7回理事会
			昭和41年度通常総会(役員変更)
6.30		「港湾ニュース」第8号発行	
9.26		「港湾ニュース」第9号発行	
9.27		第8回理事会	
11.1~2		伏木富山港視察	
11.16		阪口副会長勲四等瑞宝章受賞	
12.20		「港湾ニュース」第10号発行	
昭和42年	3.31	「港湾ニュース」第11号発行	
	4.14	第2回港湾講演会(万国博の概要・米国のコンテナ埠頭)	
	6.13	第9回理事会・昭和42年度通常総会	
	8.21	「港湾ニュース」第12号発行	
	10.11	第10回理事会	
	11.21~22	鹿島港視察	
	11.30	「港湾ニュース」第13号発行	
	12.15	「港湾ニュース」第14号発行	
昭和43年	3.31	「港湾ニュース」第15号発行	
	6.26	第11回理事会・昭和43年度通常総会(役員変更)	
	7.15	「港湾ニュース」第16号発行	
	9.25	創立50周年記念講演会(大阪府港湾の将来計画と欧米各国における港湾の状況、大阪湾の将来像について)	
	10.18	第12回理事会	
	11.21~22	清水港視察	
	12.20	「港湾ニュース」第17号発行	
昭和44年	7.18	第13回理事会・昭和44年度通常総会	
	9.25	「港湾ニュース」第18号発行	
	10.12	第14回理事会	
昭和45年	3.25	第5回港湾講演会(大阪港の現況と問題点、最近の港湾行政)	
	5.10	「港湾ニュース」第19号発行	
	6.25	第15回理事会・昭和45年度通常総会(規約改正・役員改選)	
	9.14	第6回港湾講演会(フェリーの現状と将来の展望)	
	10.13	第16回理事会	
	10.31	「港湾ニュース」第20号発行	
	11.25~26	松山港視察	
昭和46年	3.24	第7回港湾講演会(大阪府の再開発・戸前受制度)	
	10.20	「港湾ニュース」第21号発行	
昭和47年	2.14	第17回理事会	
	3.9	昭和46年度通常総会	
		高知港視察	
	3.17	「港湾ニュース」第22号発行	
	5.18	第18回理事会	
	6.15	港湾講演会(物的流通の近代化と問題点)	
		昭和47年度通常総会(特別会費徴収・会則改正・役員改選)	
	7.27	在阪国家関係機関等への要望活動	
	8.1	「港湾ニュース」第23号発行	
	9.20	第19回理事会	
10.30	境港視察		
昭和48年	7.17	第20回理事会・昭和48年度通常総会	

年度	月日	事項
昭和48年	9.5	「港湾ニュース」第24号発行
	11.15	北九州港視察
	12.20	「港湾ニュース」第25号発行
昭和49年	3.31	「港湾ニュース」第26号発行
	5.29	第21回理事会・昭和49年度通常総会(役員改選)
	9.20	「港湾ニュース」第27号発行
	10.8	山崎会長 日本港湾協会港湾功労者賞受賞
	10.31	仙台港・塩釜港視察
	11.16	山崎会長 黄綬褒章受章
	12.20	「港湾ニュース」第28号発行
昭和50年	1.20	運営委員会規程制定
	3.25	昭和49年度港湾講演会(港湾計画と環境問題)
	5.20	第22回理事会 昭和50年度通常総会
	7.2	第1回運営委員会(委員長選任)
	11.4	堺泉北港開港5周年・泉北地区供用開始8周年記念式典
	11.5~6	長崎港・大村空港視察
昭和51年	3.25	昭和50年度港湾講演会(港湾の環境保全) 「港湾ニュース」第29号発行
	6.15	第23回理事会・昭和51年度通常総会
	7.26	第1回運営委員会
	10.13	第2回運営委員会
	10.25,27	国家機関等への要望活動
	11.5~6	博多港視察
	12.20	「港湾ニュース」第30号発行
	昭和52年	3.23
6.10	第24回理事会・昭和52年度通常総会	
8.18	第1回運営委員会	
10.27~28	新潟港視察	
11.16	第2回運営委員会	
11.28~29,12.2~27	国家機関等への要望活動	
昭和53年	2.28	国家機関等への要望活動
	3.30	昭和52年度港湾講演会(最近の貿易事情) 「港湾ニュース」第31号発行
	6.7	第25回理事会・昭和53年度通常総会
	9.8	第26回理事会
	9.20	第1回運営委員会
	10.26	港湾振興研究会発足、第1回研究会
	11.9~11	北九州港視察
	11.15	第2回港湾振興研究会
	12.8,11,13	国家機関等への要望活動
	12.21	第3回港湾振興研究会
	昭和54年	1.18
2.22		第5回港湾振興研究会
3.22		第6回港湾振興研究会
3.31		「港湾ニュース」第32号発行
4.27		第7回港湾振興研究会
6.8		第27回理事会・昭和54年度通常総会
6.25		第8回港湾振興研究会(講演:大阪府下の道路整備について)
7.13		第1回運営委員会
7.26		第9回港湾振興研究会
9.27		第10回港湾振興研究会(講演:東南アジア3港の港湾事情調査について)
10.9		第2回運営委員会
10.31		第11回港湾振興研究会(講演:第6次港湾整備5ヵ年計画について)
11.15~16		清水港視察
11.22	第12回港湾振興研究会(講演:中国事情について)	
12.17~21,25,27	国家機関等への要望活動	
昭和55年	1.24	第13回港湾振興研究会(講演:関西新空港について)
	2.25	第14回港湾振興研究会
	3.31	「港湾ニュース」第33号発行
	5.30	第28回理事会・昭和55年度通常総会
	7.9	第1回運営委員会
	10.23~24	徳島港・本四連絡架橋視察
	10.31	港湾振興対策研究会懇談会(講演:大阪府総合計画概案について)
	12.9	第2回運営委員会
	12.16~20,27	国家関係機関等への要望活動
昭和56年	2.25	「港湾ニュース」第34号発行

■大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)

年度	月日	事項
昭和56年	5.22	第29回理事会・昭和56年度通常総会
	9.16	第1回運営委員会
	10.2	第30回理事会
	10.21~24	唐津港・平戸視察
	10.25	「港湾ニュース」第35号発行
	11.24~26,12.22	国家関係機関等に対する要望活動
昭和57年	3.25	講演会開催(航空貨物輸送の概要・港湾の現況とその展望)
	3.31	「港湾ニュース」第36号発行
	4.27	第31回理事会・昭和57年度通常総会
	9.22	第1回運営委員会
	10.25	「港湾ニュース」第37号発行
	10.28~29	松山港・伊方原子力発電所視察
	12.17~24	国家関係機関等に対する要望活動
昭和58年	3.31	「港湾ニュース」第38号発行
	6.14	第32回理事会・昭和58年度通常総会
	9.30	第33回理事会
昭和59年	2.16	第34回理事会
	6.11	第35回理事会
	6.28	協会創立20周年記念総会(式典・講演会:密輸と税関,ノレーボールと私・祝賀会)
		「港湾ニュース」第39号・40号発行
	10.22~24	下関港視察
	11.30	「港湾ニュース」第41号発行
昭和60年	12.17~19	国家関係機関等に対する要望活動
	2.8	記念講演(連雲港の現状と将来)
	3.31	「港湾ニュース」第42号発行
	6.4	第36回理事会・昭和60年度通常総会(記念講演:関西国際空港について)
昭和61年	12.16~18	国家関係機関等に対する要望活動
	2.21~22	名古屋港視察
	3.31	「港湾ニュース」第43号発行
	6.4	第37回理事会・昭和61年度通常総会(記念講演:ニューメディアの現状と動向)
	7.28	阪南港湾振興連絡協議会設立
昭和62年	12.18~19	国家関係機関等に対する要望活動
	1.22~23	千葉港視察
	2.19	講演会(関西国際空港の着工と泉州経済の展望)
	3.19	ポートセールスセミナー実施(九州)
	3.31	「大阪府のみなど」第44号発行
	7.17	第38回理事会・昭和62年度通常総会(記念講演:国際貨物の動きと関西国際空港)
	11.9	「大阪府のみなど」第45号発行
昭和63年	11.26~27	横浜港・東京港視察
	1.11~13	貨物誘致活動調査団を北九州へ派遣
	2.2~11	姉妹港国際貨物調査団派遣(タンジュンペラク港・シンガポール港)
	7.1	第39回理事会・昭和63年度通常総会(記念講演:大阪ベイエリアの開発について)
	8.5	懇談会(タンジュン・ペラク港におけるコンテナ埠頭管理の現状と将来展望)
	9.5	講演会(大阪ベイエリアの経済情勢について)
	11.22	講演会(近畿地区における運輸取扱の現状と将来展望に関する調査研究について)
11.30~12.2	長崎港・長崎オランダ村視察	
平成1年	11.30~12.2	長崎港・長崎オランダ村視察
	3.1~2	貨物誘致調査団を東京へ派遣
	3.31	「大阪府のみなど」第46号発行
	4.22~28	国際港湾協会総会(米国マイアミ)へ派遣
	7.5	第40回理事会・平成元年度通常総会(記念講演:臨空都市圏構想について)
平成2年	11.1~2	新潟港視察
	2.6	港湾セミナー(旧港再開発について)
	3.31	「大阪府のみなど」第47号発行
	6.21	第41回理事会・平成2年度通常総会(記念講演:大阪湾ベイエリアについて)
	7.23~24	第5回「海の祭典」シンポジウム(東京)へ参加
	9.27	港湾講演会(タンジュン・ペラク港の現状について)
	11.1~2	伏木富山港視察
	11.14~16	国家関係機関等に対する要望活動
平成3年	12.28	「大阪府のみなど」第48号発行
	3.4~5	港湾講演会(東京)へ参加
	6.1	「大阪府のみなど」第49号発行
	7.12	第42回理事会・平成3年度通常総会(記念講演:大阪湾長期構想について)
	7.21~23	第6回「海の祭典」シンポジウム(新潟)へ参加
	11.7~8	清水港視察
平成4年	11.27~29	国家関係機関等に対する要望活動
	1.30	「大阪府のみなど」第50号発行

年度	月日	事項
平成4年	2.20~21	貨物誘致調査団を千葉港へ派遣
	3.1~3	港湾講演会(東京)へ参加
	3.25	港湾講演会(ベイ・リニューアル・ゾーンの整備について)
	6.11	第1回運営委員会
	6.30	「大阪府のみなど」第51号発行
	7.20~22	第7回「海の祭典」シンポジウム(仙台)へ参加
	7.22	第43回理事会・平成4年度通常総会(記念講演:国際化時代の大阪の課題と展望について)
	9.24	第2回運営委員会
	10.27	港湾セミナー(港湾整備における民活事業について、開発銀行と港湾民活プロジェクトについて、民間都市機構における港湾関係業務について)
	11.5~6	下関港視察
	11.19	第3回運営委員会
	11.30~12.2	国家関係機関等に対する要望活動
平成5年	2.	「大阪府のみなど」第52号発行
	3.18	講演会(回遊都市・大阪/パネルディスカッション、世界都市・大阪を先導するみなとづくり)
	6.4	第1回運営委員会
	6.11	第44回理事会・平成5年度通常総会(記念講演:大阪湾における物流の現状と課題)
		「大阪府のみなど」第53号発行
	6.25	講演会(国際複合一貫輸送と港湾 チャイナ・ランド・ブリッジの現状と発展)
	8.30	講演会(タンジュン・ペラク港の現状と将来について)
	9.17	第2回運営委員会
	10.22	第3回運営委員会
	10.28~29	横浜港視察
	11.18~19	国家関係機関等に対する要望活動
	12.7	大阪府港湾協会創立30周年記念式典(記念講演:サッカー人生から学ぶ企業戦略) 「大阪府のみなど」第54号(創立30周年記念特集号)発行
平成6年	3.8~9	港湾講演会(東京)へ参加
		「大阪府のみなど」第55号発行
	6.3	第1回運営委員会
	6.14	第45回理事会・平成6年度通常総会(記念講演:大阪産業振興戦略)
	9.26	第2回運営委員会
	10.31	第3回運営委員会
	11.10~11	千葉港視察
	11.17~21	国家関係機関等に対する要望活動
	12.5	「大阪府のみなど」第56号発行
		大阪府ポートセミナー開催〔大阪〕
平成7年	3.17	大阪府ポートセミナー開催〔大阪〕
	6.5	第1回運営委員会
	6.	「大阪府のみなど」第57号発行
	6.28	第46回理事会・平成7年度通常総会(記念講演:中国と関西の経済関係)
	9.18	第2回運営委員会
	10.23	第3回運営委員会
	11.1~2	仙台港・塩釜港視察
	11.30~12.1	国家関係機関等に対する要望活動
	12.15	「大阪府のみなど」第58号発行
		大阪府堺泉北港ポートセミナー〔東京〕開催
平成8年	1.24	大阪府堺泉北港ポートセミナー〔東京〕開催
	6.13	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第59号発行
	7.19	第47回理事会・平成8年度通常総会(記念講演:大阪府営港湾長期整備構想あすぼーと21について、近畿圏の最近における貿易動向の概要とりんくうタウンの動き)
	9.20	第2回運営委員会
	11.11	第3回運営委員会
	11.26~28	鹿児島港視察
	12.5~6	国家関係機関等に対する要望活動
平成9年	1.	「大阪府のみなど」第60号発行
	2.13	大阪府堺泉北港ポートセミナー〔東京〕開催
	2.25	大阪府堺泉北港ポートセミナー〔大阪〕開催
	6.4	第1回運営委員会
	6.	「大阪府のみなど」第61号発行
	6.24	第48回理事会・平成9年度通常総会(記念講演:大阪府営港湾をとりまく経済情勢)
	9.24	第2回運営委員会
	10.27	第3回運営委員会
	10.30~31	新潟港視察
	11.27~28	国家関係機関等に対する要望活動
平成10年	1.	「大阪府のみなど」第62号発行
	6.11	第1回運営委員会
	6.	「大阪府のみなど」第63号発行
	7.3	第49回理事会・平成10年度通常総会(記念講演:最近の物流事情と今後の展望について~企業の多国籍化と国際物流)
	9.28	第2回運営委員会

■大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)

年度	月日	事項
平成10年	10.30	第3回運営委員会
	11.9~10	川崎港視察
	11.26~27	在阪国家機関等への要望活動
平成11年	2.	「大阪府のみなど」第64号発行
	2.10	大阪府堺泉北港ポートセミナー〔大阪〕開催
	2.16	大阪府堺泉北港ポートセミナー〔東京〕開催
	6.15	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第65号発行
	7.6	第50回理事会・平成11年度通常総会(記念講演:最近の経済・金融情勢について)
	9.8	第2回運営委員会
	11.1	第3回運営委員会
	11.3~5	博多港視察
	11.24~30	在阪国家機関等への要望活動
	平成12年	2.
2.9		大阪府堺泉北港ポートセミナー〔大阪〕開催
2.17		大阪府堺泉北港ポートセミナー〔東京〕開催
6.14		第1回運営委員会
7.		「大阪府のみなど」第67号発行
7.5		第51回理事会・平成12年度通常総会(記念講演:港湾運送事業法の改正について)
9.12		第2回運営委員会
10.27		第3回運営委員会
11.22~24		在阪国家機関等への要望活動
11.30~12.1		常陸那珂港視察
平成13年		2.17
	3.7	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催
	3.	「大阪府のみなど」第68号発行
	6.14	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第69号発行
	7.6	第52回理事会・平成13年度通常総会(記念講演:カルフルジャパン関西における出店戦略について)
	9.13	第2回運営委員会
	10.31	第3回運営委員会
	11.8~9	細島港視察
	11.27,30	在阪国家機関等への要望活動
	12.6	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:中国華東地域における経済・産業・物流)
	平成14年	1.30
3.		「大阪府のみなど」第70号発行
5.21		牧野会長(社)日本港湾協会「港湾特別功労者」受賞
6.19		第1回運営委員会
7.		「大阪府のみなど」第71号発行
7.5		第53回理事会・平成14年度通常総会(記念講演:WTO加盟後の中国物流の課題と将来展望)
7.19		「海の日」を祝う集い
8.8		第2回運営委員会
9.5		第3回運営委員会
10.9		第4回運営委員会
10.		「大阪府のみなど」第72号発行
11.11~12	仙台塩釜港視察	
11.28~29	在阪国家機関等への要望活動	
平成15年	1.	「大阪府のみなど」第73号発行
	2.4	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催
	2.13	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催
	5.23	SARS緊急セミナー開催(パニックに陥らないためのSARSの正しい知識、大阪検疫所におけるSARSの対応について)
	6.6	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第74号発行
	7.11	第54回理事会・平成15年度通常総会(記念講演:大阪府営港湾で構想する未来ビジョン~フェリー事業の立場から)
	7.18	府営港湾国際化セミナー開催(天津海河兩岸総合開発プロジェクトの概要について)
		「海の日」を祝う集い
	8.5	ポート・ステート・コントロール〔PSC〕セミナー開催(わが国のPSCの概要について、PSCの実際の運用事例について)
	8.11	第2回運営委員会
	9.10	府営港湾防災〔津波〕セミナー開催(南海地震で想定される津波の正体・メカニズム、大阪府における地震・津波対策の取組みについて)
	9.16	第3回運営委員会
	10.	「大阪府のみなど」第75号発行
10.22	第4回運営委員会	
11.6~7	横浜港視察	
11.11~15	2003年堺泉北港ポートセールス訪中団派遣(天津市・大連市)	
11.25~26,12.8	在阪国家機関等への要望活動	
平成16年	1.	「大阪府のみなど」第76号発行

■大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)

年度	月日	事項
平成16年	2.17	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:フェリー・RORO船によるモーダルシフトの推進)
	3.26	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:松下電器におけるグリーンロジスティクスの取組み)
	6.8	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第77号発行
	7.9	第55回理事会・平成16年度通常総会(記念講演:ベイサイドにおける商業開発について～開発事例を中心として)
	7.16	「海の日」を祝う集い
	7.22	港湾保安対策セミナー開催(府営港湾における港湾保安対策について、国際航海船舶の保安確保について)
	9.10	第2回運営委員会
	10.	「大阪府のみなど」第78号発行
	10.27	第3回運営委員会
	10.28~30	北九州港・下関港視察
	11.16~20	2004年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(天津市・青島市)
	12.7,13	在阪国家機関等への要望活動
平成17年	1.	「大阪府のみなど」第79号発行
	2.9	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:Winning Together グローバル・ロジスティクス戦略)
	2.18	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:臨海部における商業開発の最新動向について)
	3.2	府営港湾国際化・ビジネス交流セミナー開催(講演:釜山機械産業の現状、釜山中小企業の現状を現地社長がそのまま語る、釜山港の最新事情について)
	5.26	平成17年度主要事業説明会(平成17年度大阪府営港湾主要事業について、大阪府営港湾長期構想「あすぽーと21」について)
	6.13	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第80号発行
	7.8	第56回理事会・平成17年度通常総会(記念講演:最近の景気動向と元気な会社)
	7.15	「海の日」を祝う集い
	7.15	大阪府営港湾防災セミナー開催(東南海・南海地震に伴う津波被害と対策について、コンビナート地区における津波対策について)
	7.31	「海の教室」大阪湾クルージング開催
	9.7	第2回運営委員会(書面)
	10.	「大阪府のみなど」第81号発行
	10.30	宮崎行き大型フェリー船内見学と南九州観光PR・物産展開催
	11.8	第3回運営委員会
	11.15~19	2005年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(天津市 河北省)
11.15~16	伏木富山港視察	
11.30・12.5	在阪国家機関等への要望活動	
平成18年	1.	「大阪府のみなど」第82号発行
	1.30	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:堺泉北港中古車オークション事業／輸出中古車マーケットの現状と展望)
	3.22	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:堺泉北港中古車オークション事業／輸出中古車マーケットの現状と展望)
	3.24	府営港湾国際化セミナー開催(講演:躍動する中国最新経済事情～中国ビジネス最新動向)
	5.29	平成18年度大阪府営港湾主要事業説明会(堺泉北港・阪南港の港湾計画、平成18年度大阪府営港湾主要事業について)
	6.13	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第83号発行
	7.11	第57回理事会・平成18年度通常総会(記念講演:2006年の国際情勢を読む 世界の火薬庫～中東と東アジア)
	9.7	第2回運営委員会
	10.	「大阪府のみなど」第84号発行
	10.21~22	「堺泉北港に帆船「海王丸」がやって来る」開催
	10.25,27,31	在阪国家機関等への要望活動
	11.8~9	名古屋港・四日市港視察
	11.13~17	2006年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(青島市・大連市)
平成19年	1.	「大阪府のみなど」第85号発行
	2.7	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:日中間の海上物流について)
	3.14	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:日中間の海上物流について)
	3.19	府営港湾国際化セミナー開催(講演:進展するアジア国際分業に対応した国際物流戦略)
	5.30	平成19年度大阪府営港湾主要事業説明会(堺泉北港・阪南港の港湾計画、平成19年度港湾・海岸施策のポイント)
	6.15	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第86号発行
	7.12	第58回理事会・平成19年度通常総会(記念講演:外航海運の動向2007)
	9.10	第2回運営委員会
	9.24	堺泉北港船上見学クルージング開催(旧堺燈台復元完成記念)
	10.	「大阪府のみなど」第87号発行
	10.24,29,31	在阪国家機関等への要望活動
	11.1~2	川崎港・横浜港視察
11.12~16	2007年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(青島市・寧波市)	
12.18	府営港湾防災セミナー開催(講演:東南海・南海地震の津波被害予測と津波対策)	
平成20年	1.	「大阪府のみなど」第88号発行
	2.4	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:外航海運の動向)
	3.11	府営港湾国際化セミナー開催(講演:EUの拡大と港湾物流の変化)
	3.25	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:アジアにおける物流の現状と将来展望)
	6.16	第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第89号発行

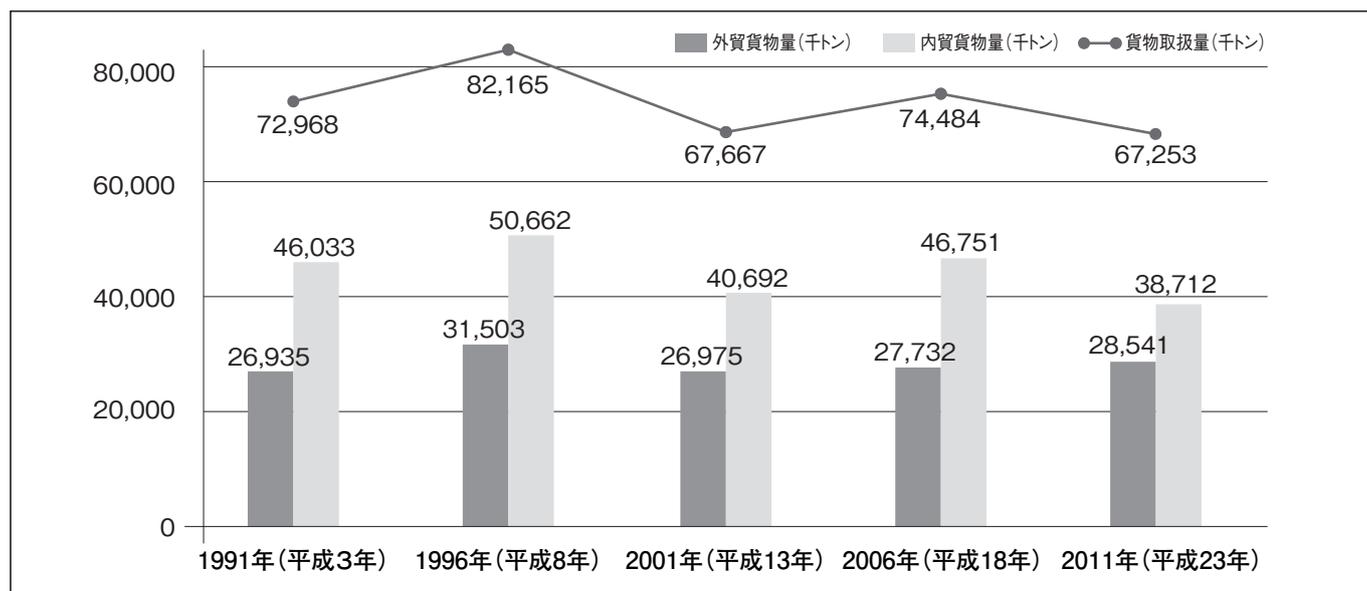
■大阪府港湾協会のあゆみ(50年史年表)

年度	月日	事項
平成20年	7.28	第59回理事会・平成20年度通常総会(記念講演:最近の経済動向と今後の見通し)
	9.26	第2回運営委員会
	10.	「大阪府のみなど」第90号発行
	11.5,7,19	在阪国家機関等への要望活動
	11.8	堺泉北港クルージング～泉大津フェニックスバス見学と船上見学開催
	11.10～14	2008年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(福建省廈門市・福州市)
平成21年	11.20～21	清水港・御前崎港視察
	1.	「大阪府のみなど」第91号発行
	1.30	堺泉北港エコポートセミナー開催(基調講演:今、環境の時代を考える)
	2.5	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:金融危機下における世界経済と貿易・投資の動向)
	3.12	大阪府営港湾国際化セミナー開催(講演:金融危機下における世界経済と貿易・投資の動向)
	3.24	平成20年度第3回運営委員会
	3.25	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:国際海上貨物輸送の動向と今後の見通し)
	6.12	平成21年度第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第92号発行
	7.14	第60回理事会・平成21年度通常総会(記念講演:2015年「アセアン共同体」に向けた現状と展望～ベトナム・ラオス・カンボジアを中心にして)
	8.21	堺泉北港開港40周年特別講演会開催(講演:日本の希望)
	9.17～18	茨城港視察
	9.29	第2回運営委員会
	10.	「大阪府のみなど」第93号発行
11.9～13	2009年堺泉北港ポートセールス訪中国派遣(江蘇省連雲港市・蘇州市)	
12.22,24	在阪国家機関等への要望活動	
平成22年	1.12・2.18	在阪国家機関等への要望活動
	1.	「大阪府のみなど」第94号発行
	1.27	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(講演:変貌する大阪湾ベイエリア・関西)
	2.15	大阪府営港湾国際化セミナー開催(講演:中国をはじめアジア諸国の経済戦略と今後の見通し～日本経済回復への道)
	3.24	平成21年度第3回運営委員会
	3.25	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(講演:中国経済の実態 その強さと弱点)
	6.15	平成22年度第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第95号発行
	7.5	第61回理事会・平成22年度通常総会(記念講演:港湾政策の現状と課題～阪神港の生き残りのために)
	8.25～27	北九州港・博多港視察
	10.	「大阪府のみなど」第96号発行
	11.5	第2回運営委員会
	12.14,21,24	在阪国家機関等への要望活動
	12.16	大阪府営港湾ポートセミナー〔宮崎〕開催(講演:モーダルシフトへの取組みについて)
平成23年	1.	「大阪府のみなど」第97号発行
	2.2	大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(事業紹介)
	3.18	大阪府営港湾国際経済セミナー開催(講演:中国経済の動向とVISTA諸国の台頭)
	3.23	平成22年度第3回運営委員会
	6.21	平成23年度第1回運営委員会
	7.	「大阪府のみなど」第98号発行
	7.20	第62回理事会・平成23年度通常総会(記念講演:大阪湾ベイエリアを中心とした関西における企業立地の動向について)
	9.8～9	京都舞鶴港視察
	10.	「大阪府のみなど」第99号発行
	10.19	第2回運営委員会
	12.1,14,16	在阪国家機関等への要望活動
	平成24年	1.
2.15		大阪府営港湾ポートセミナー〔千葉〕開催(事業紹介)
3.9		大阪府営港湾国際経済セミナー開催(講演:円高の推移と世界経済の今後の行方)
3.16		平成23年度第3回運営委員会
3.26		大阪府営港湾ポートセミナー〔大阪〕開催(事業紹介)
6.15		平成24年度第1回運営委員会
7.		「大阪府のみなど」第101号発行
7.11		第63回理事会・平成24年度通常総会(記念講演:コンテナ戦略港湾のねらいと展望)
9.20～21		細島港・宮崎港視察
10.2		第2回運営委員会
10.		「大阪府のみなど」第102号発行
10.18・11.5,14,15,27,30		在阪国家機関等への要望活動
11.21	大阪府営港湾ポートセミナー〔東京〕開催(西日本向け物流セミナー)	
平成25年	1.	「大阪府のみなど」第103号発行
	2.4	大阪府営港湾国際経済セミナー開催(講演:中国・東南アジア物流の現状と今後～新政権発足後の中国経済を視野に)
	3.12	平成24年度第3回運営委員会
	6.19	平成25年度第1回運営委員会

■統計でみる 府営港湾20年

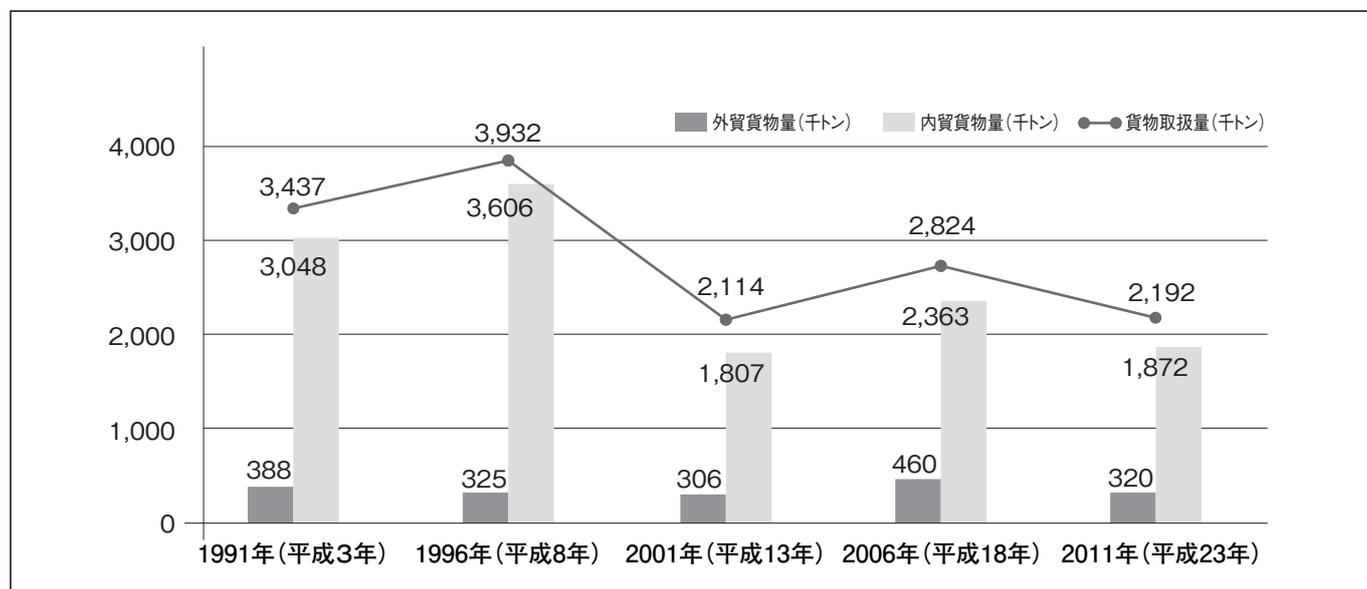
堺泉北港

	1991年(平成3年)	1996年(平成8年)	2001年(平成13年)	2006年(平成18年)	2011年(平成23年)
貨物取扱量(千トン)	72,968	82,165	67,667	74,484	67,253
外貿貨物量(千トン)	26,935	31,503	26,975	27,732	28,541
内貿貨物量(千トン)	46,033	50,662	40,692	46,751	38,712



阪南港

	1991年(平成3年)	1996年(平成8年)	2001年(平成13年)	2006年(平成18年)	2011年(平成23年)
貨物取扱量(千トン)	3,437	3,932	2,114	2,824	2,192
外貿貨物量(千トン)	388	325	306	460	320
内貿貨物量(千トン)	3,048	3,606	1,807	2,363	1,872



堺泉北港の新岸壁が供用開始 夕凧第1号岸壁が完成!

大阪府港湾局

堺泉北港は、昭和30年代に造成された堺泉北臨海工業地帯を支える近代的な工業港として発展し、物流面においては汐見地区や助松地区の公共バースの整備により、自動車専用船による中古車輸出が増えるなど、取扱貨物量は着実な伸びを示しており、中古車輸出拠点として、平成24年において全国5位(西日本2位)の取扱量を誇っています。

そうした中で、さらなる中古車輸出の荷役形態の効率化、貨物量増加に対応するために、汐見沖地区の多目的国際ターミナル事業として、平成19年度に夕凧第1号岸壁の工事着手を行い、整備を進め、この度平成25年4月18日に供用を開始しました。

夕凧第1号岸壁は水深が11mあり、中古車輸出用の7番目のバースとして整備され、4月23日には、第1船の自動車専用船(12,442総トン)が初着岸し、ミャンマー向けの中古車約800台を積み込み出港しました。

今後この新しい岸壁を活用することにより、堺泉北港の中古車輸出の拠点としての機能強化と集荷を進めてまいります。

<汐見沖地区多目的国際ターミナル事業>

【事業目的】

- 荷役形態の効率化
- 輸送船舶の大型化・貨物量増加への対応

【整備施設】

総事業費(補助事業費額)：約18億円

整備期間：H19年度～H24年度

- 夕凧第1号岸壁
 - ・延長、水深：260m、-11m
 - ・岸壁形式：栈橋式
- 荷捌地
 - ・面積：約4.2ha
- 臨港道路
 - ・二車線 延長：1,400m
- 埠頭保安施設
 - ・SOLAS設備(フェンス、カメラ、照明設備等)



夕凧第1号岸壁



供用後初着岸

新造巡視艇「みのお」就役

堺海上保安署

巡視艇「みのお」(以下「みのお」)は、巡視船「かいりゆう」(以下「かいりゆう」)の代替船として、長崎市にあります長崎造船株式会社で建造、3月29日同社から引渡しを受けて船名を「みのお」と命名されたうえで堺海上保安署に配属、就役いたしました。

なお、「かいりゆう」は、昭和52年3月堺海上保安署に配属されて以来約36年間、大阪湾における治安の維持、海難救助、海洋環境の保全や海上交通の安全確保などの海上保安業務に従事し、約16万7千海里、地球約7.7周分にもおよぶ航海を終え、去る3月12日に解役となりました。

「みのお」という船名については、「みのお」が海上保安庁における船型の区分では35メートル型巡視艇(消防型)となり、この船型の巡視艇に付与する船名が、海上保安庁の基準により「滝」の名称を付すことになっていることから、大阪府で唯一「日本の滝百選」に選ばれ、府民に最も馴染みのある「箕面の滝」に因み命名されたものです。

「みのお」の性能等について、推進方式は高速での航行に適したウォータージェット推進を採用し、「かいりゆう」の2倍以上となる25ノット以上で航行することができると共に、夜間における遭難者等の捜索に非常に有効な「赤外線搜索監視装置」や津波警報をはじめ各種の警報、注意報の内容を表示することが可能な「防災情報等表示装置」を装備し、「かいりゆう」に比べて機動力や夜間搜索監視能力が格段に向上いたしました。

また放水能力に関しては、「かいりゆう」に比べて若干劣るものの、4基の放水銃を備え、最大毎分1万6,800リットルの放水が可能であり、更に16トンの泡消火剤及び2トンの粉末消火剤を搭載し、火災事案に対する高い能力を備えています。

4月17日には、就役した「みのお」を地元自治体や関係機関の皆様にご披露するため、泉大津市にありますホテルサンルート関空において就役披露式を行ったところ、高石市長及び泉大津市長並びに大阪府港湾局長をはじめ150名を超える多数の来賓各位のご臨席を賜り、盛大に式典を挙行することができました。

式典は、堺海上保安署長の式辞に始まり、来賓各位から『堺泉北港には、我が国有数の大規模石油コンビナート等が集積しており、南海トラフの巨大地震の発生が危惧される状況において、港湾エリアの安全確保は極めて重要であり、この度巡視艇「みのお」が就役したことは、大変心強く感じている。』とのご祝辞を頂き、続いて第五管区海上保安本部長から『巡視艇「みのお」の就役により、海上保安業務体制の充実が図られ、乗組員が一丸となって重要課題に適確に対応し、地域の皆様の期待に応えることができるものと確信している。』との挨拶が行われました。

最後に「みのお」乗組員の紹介が行われた後、井上船長から『「みのお」の能力を遺憾なく発揮して海上保安業務に邁進し、地域住民の方々のご期待に沿うよう全力を尽くす。』との力強い挨拶で式典は締めくくられました。

式典終了後には、来賓等に対する船内見学を行い、「みのお」乗組員から赤外線搜索監視装置等の最新設備や消防機能について説明が行われ、見学者の皆様も関心を寄せられていました。

更に午後からは、地域住民の皆様等にも「みのお」をご覧頂くため一般公開したところ、平日にもかかわらず、わざわざ駆けつけて頂いたご家族連れをはじめ、約70名の方々に船内を見て頂くことができました。



国際コンテナ貨物拡大助成事業補助金申請随時受付中

堺泉北港港湾振興連絡協議会

堺泉北港港湾振興連絡協議会では、国際コンテナ貨物拡大助成事業補助金の申請を受付けております。

この事業は、平成23年度から継続して実施している補助制度で、堺泉北港内航フィーダーコンテナ航路、もしくはコンテナ航路を新規で利用する国際コンテナ貨物の荷主に対して補助するものです。

補助事業の概要は下記のとおりです。

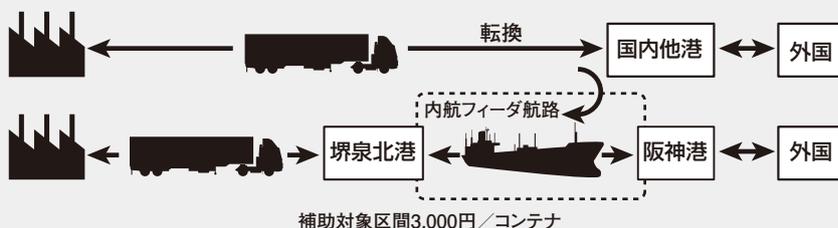
国際コンテナ貨物拡大助成事業

■補助金=  コンテナ 1本／3,000円 但し、補助の合計が100万円を超えるとときは100万円を上限とする

■補助金の対象となる事業

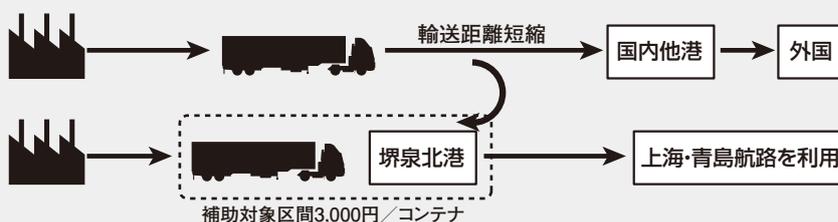
①海上モーダルシフト(陸上輸送から海上輸送への転換)

コンテナ貨物の国際海上輸送にあたって、堺泉北港に寄港する内航フィーダー航路を利用する海上輸送事業



②陸上輸送距離短縮(利用港を国内他港から堺泉北港に変更)

国際海上輸送(輸出)に供するコンテナ貨物の陸上輸送において、堺泉北港に寄港する外航コンテナ航路を利用することによって陸上輸送距離を短縮しようとする事業



■補助事業の仕組み

補助対象事業者 = 法人たる荷主企業(他者から依頼を受けてコンテナ貨物を輸送することを業とする者は除く)

補助対象期間 = 毎年4月1日以降で、事業開始日から翌年2月28日まで

交付の決定 = 協議会が申請内容を審査(予算の範囲内で事業計画書のコンテナ個数の多いものから順に決定)

補助事業者 = 毎月、[船荷証券]など堺泉北港での揚げ積みを確認できる書類を添付、翌月10日までに報告

補助申請受付期間 = 平成26年1月31日まで

補助金、申請手続き等の詳細は…

堺泉北港港湾振興連絡協議会事務局(大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ内)まで
TEL.0725-21-7203 WEB:<http://www.osakaprefports.jp/>

堺泉北港⇄神戸港内航コンテナフィーダー航路の運航スケジュールや料金の詳細は…

オー・オー・シー・エル(ジャパン)株式会社 西日本支店 セールス&マーケティング部
TEL.06-6266-0381 WEB:<http://www.oocl.com/japan/jpn/>

堺泉北港→(輸出)上海・青島コンテナ航路の運航スケジュールや料金の詳細は…

山九株式会社泉北支店 業務グループ 船舶代理店係
TEL.0725-22-9039 WEB:<http://www.sankyu.co.jp/index.html>

堺第7-3区共生の森づくり活動報告

大阪府港湾局計画調整課計画グループ

①「第10回共生の森植樹祭」が開催されました

大阪府では、港湾局と環境農林水産部みどり・都市環境室、循環型社会推進室が一体となって、堺第7-3区（堺市西区築港新町）において森づくりを進めています。

堺第7-3区は、280haの面積を有する産業廃棄物埋立処分地であり、そのうち100haの区画を「共生の森」と名付け、大阪府をはじめとする行政機関や府民の方、企業、NPO法人などが力を合わせ、これまでに多くの苗木を植えてきました。

平成25年3月2日(土)、3日(日)に、10回目となる「共生の森植樹祭」が開催されました。2日は、冬を思わせる強い北風が吹く中、449名が参加し、1,125本の苗木を植えました。3日は、風もおさまり穏やかな天候の中、252名が参加し、750本の苗木を植えました。2日間で、過去最高の701名の方が参加し、10,000㎡、1,875本を植栽しました。

10回の植樹祭で植栽した面積は約5万3千㎡、苗木の本数は約2万1千本となりました。

今後は、苗木が大きく育つよう植樹1～3年目の苗木を中心に、苗木のまわりの雑草を刈り、苗木に日が当たるよう草刈活動を行うことが重要となります。今年の夏頃には、草刈イベントを実施する予定ですので、皆様の参加をお待ちしています。



②住友ゴム工業株による植樹活動、雑草防止作業の実施

植樹祭が開催された3月2日、共生の森で活動をされている住友ゴム工業株によるN山の区画（約1,000㎡）での植樹活動も行われました。住友ゴム工業株の社員やOB、家族の方々66名が、どんぐり苗2,124本を植えられました。植樹活動終了後、苗木の生長を守るため、雑草防止のシート貼り作業も行われました。



③NTT西日本による植樹活動、自然体験学習の実施

3月17日には、共生の森で活動されているNTT西日本によるN山の区画（約1,000㎡）での植樹活動が行われました。NTT西日本の社員や家族の方々74名が、320本の苗木を植えられました。午前中の植樹会終了後、午後からは公益社団法人大阪自然環境保全協会参画のもと、自然体験学習を実施され、共生の森で見られる草、花、木、虫などの自然環境について学ばれました。



海の月間実施計画決まる

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ



海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う日として、平成8年から「海の日」が祝日となり、平成13年6月の「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律」の成立により、平成15年から「海の日」は7月の第3月曜日となり、三連休化されました。

これを契機として、国土交通省をはじめとした政府関係機関で構成する「海の日」広報推進連絡会議において、7月を「海の月間」と定め、国民各層に「海の日」の意義を広めるなど、海事思想の普及のための活動を実施しています。

この期間を中心に、全国各地で各種行事が実施されますが、ここにご紹介するのは、大阪府営港湾周辺で開催される、当日参加が可能なイベントです。海の月間の趣旨をご理解いただき、皆様お誘い併せの上、是非ご参加ください。

イベント名	実施日時	実施場所	問合せ先
第50回中学生「海の絵画コンクール」	7月9日(火)	海遊館エントランスビル	公益社団法人近畿海事広報協会 06-6573-6387
第35回「海の写真コンクール」	～8月8日(木)		

「第53回親と子の写生会」で 大阪府港湾協会賞贈呈

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

平成25年5月18日(土)泉大津市内の幼稚園から中学校の先生で構成された、泉大津美育研究会及び泉大津市文化連盟主催のもと、「第53回親と子の写生会～わたしたちのまち 泉大津の港をかこう!～」が開催されました。

当日は、天気にも恵まれ、たくさんの親子が参加されました。参加者は、思い思いに泉大津の港を写生し、190点もの作品が集まり、その数多くの作品から23点が特別賞として選ばれました。

受賞された作品はどれも表現力がとても豊かで、心を打たれるような作品ばかりでした。

また、6月7日(金)～6月12日(水)の期間、泉大津CITYアルザアトリウム2階において展覧会が開催され、特別賞受賞作品をはじめ、参加者の作品が展示されました。

大阪府港湾協会賞としては、浜小学校1年生 小野寺初菜さんの作品が選ばれ、賞状とトロフィーが贈呈されました。



企業立地フェア2013への出展

阪南港港湾振興連絡協議会

阪南港港湾振興連絡協議会(大阪府・岸和田市・貝塚市・忠岡町)は東京において開催された、「企業立地フェア2013」に出展を行い、阪南2区及び4区の公募予定用地の紹介をはじめ、阪南港及び阪南港構成3市町のPRを実施しました。

企業立地フェアは、地域の活性化を進める地方公共団体や関連団体と、最適なビジネス環境や雇用確保を求める企業や産業との交流により、地域産業振興と企業の新たな価値の創出を図ることを目的に開催されているもので、今回は6回目でした。

出展者は、岩手県花巻市、福島県二本松市、栃木県、さいたま市、新潟県新発田市、愛知県幸田市及び田原市、和歌山県紀の川市などの自治体のほか関東経済産業局、中小企業基盤整備機構、電源地域振興センター、日本立地センターなどの企業誘致促進団体で、あわせて18団体でした。

開催日 平成25年5月15日(水)～17日(金)

開催場所 東京ビッグサイト 西3ホール

来場者数 2,850人



第3回堺泉北港ドラゴンボート大会開催

高石港湾振興会

平成25年5月26日(日)、浜寺公園に特設会場を設置して、高石商工会議所主催による「第3回堺泉北港ドラゴンボート大会」と、高石市主催による「高石シーサイドフェスティバル2013」が同時開催されました。

ドラゴンボート競技は、ボート競技にとって日本有数の環境とされるコースが長く波の穏やかな浜寺水路で行われ、地元から7チーム、市外から11チームが出場しました。

直線250メートル種目では、地元からの声援を受け、市内7チームがレースを展開しました。前回優勝の「麒麟」をわずか3秒差で破って、「チーム武部(児玉タービン)」が見事念願の優勝を果たしました。

直線500メートル種目では、第11回アジア選手権二次選考会を兼ねたレースが白熱し、常勝の強豪チームを破り、初出場の「bp」が圧倒的な力を見せつけて、総合優勝の栄光を勝ち取りました。

公園内には、地場産物産展やフリーマーケット、露店が60店以上出店し、ステージでは常時、パフォーマンスショーや音楽演奏などが行われ、一日中賑わいを見せていました。



大会結果

◆市内の部250m	(タイム)	◆オープン500m	(タイム)
優勝 チーム武部(児玉タービン)	(1:08.18)	優勝 bp	(2:24.38)
準優勝 麒麟	(1:11.38)	準優勝 熊野水軍	(2:31.08)
3位 高石北村之民	(1:12.26)	3位 R.スポーツマンクラブ	(2:33.45)
◆男女混合500m	(タイム)	◆総合決勝500m	(タイム)
優勝 関西龍舟シンバ	(2:38.17)	優勝 bp	(2:22.51)
準優勝 Team Banana	(2:49.20)	準優勝 関西龍舟シンバ	(2:31.68)
3位 team 風	(2:52.83)	3位 熊野水軍	(2:37.00)

平成24年 大阪府営港湾の港勢 (堺泉北・阪南・深日・尾崎・泉州・泉佐野港)

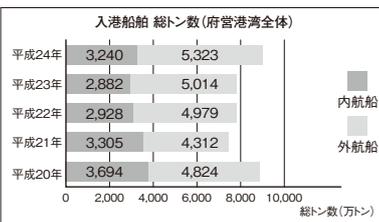
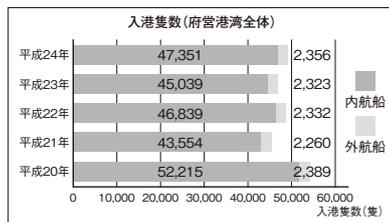
●府営港湾全体

大阪府が管理する8港湾のうち、港湾統計の対象である堺泉北・阪南・深日・尾崎・泉州・泉佐野港の6港湾の港勢(平成24年1月～12月)をとりまとめました。

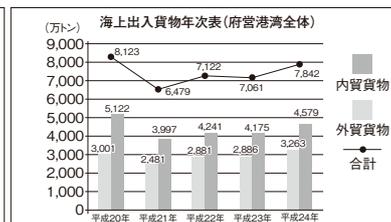
入港船舶数は、外航船が2,356隻、内航船が47,351隻で、合計49,707隻となっています。

取扱貨物量は、外貿が約3,263万トン、内貿が約4,579万トンで、合計約7,842万トンとなっています。

●入港船舶(府営港湾全体)



●海上出入貨物(府営港湾全体)



●堺泉北港

◎全体

入港船舶数は、外航船が2,275隻、内航船が30,465隻で、合計32,740隻です。

取扱貨物量は、外貿が約3,233万トン、内貿が約4,265万トンで、合計約7,498万トンです。

主要品種は、原油、完成自動車(フェリー含む)、LNG(液化天然ガス)、石油製品、鋼材となっています。

◎公共

主要品種は、外貿の輸出では完成自動車、金属くず、鋼材で、輸入が鋼材、木製品、非金属鉱物です。内貿の移出では、完成自動車(フェリー含む)、その他輸送用車両、鋼材で、移入は、完成自動車(フェリー含む)、砂利・砂、鋼材です。

泉大津～新門司間のフェリーの乗降人員は乗込が約8万1千人、上陸が約8万8千人で、合計約16万9千人が利用しています。

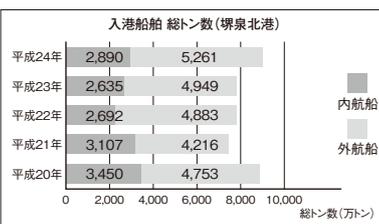
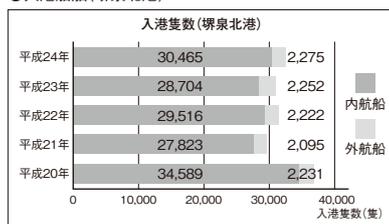
●堺泉北港 取扱品種上位ランキング(外貿)

順位	輸出		輸入	
	品 種 名	貨物量(千トン)	品 種 名	貨物量(千トン)
1	石油製品	1,983	原油	13,773
2	完成自動車	893	LNG(液化天然ガス)	9,837
3	化学薬品	579	石油製品	1,531
4	鋼材	305	LPG(液化石油ガス)	870
5	金属くず	278	鋼材	594

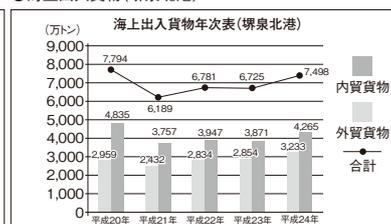
●堺泉北港 取扱品種上位ランキング(内貿)

順位	移出		移入	
	品 種 名	貨物量(千トン)	品 種 名	貨物量(千トン)
1	完成自動車	5,031	原油	6,460
2	石油製品	4,304	完成自動車	5,394
3	鋼材	2,950	鋼材	4,071
4	重油	2,755	砂利・砂	1,655
5	原油	1,387	セメント	1,578

●入港船舶(堺泉北港)



●海上出入貨物(堺泉北港)



大阪府港湾局経営振興課施設運営グループ

●阪南港

入港船舶数は、外航船が81隻、内航船が7,646隻で、合計7,727隻です。
 取扱貨物量は、外貨が約30万トン、内貨が約188万トンで、合計約218万トンです。
 主要品種は、外貨が木材チップ、原木、鋼材で、内貨が砂利・砂、廃土砂、石油製品です。

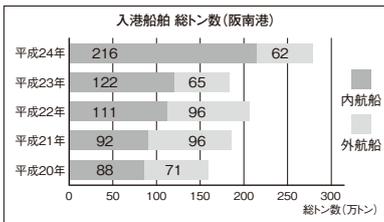
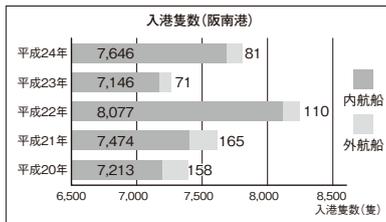
●阪南港 取扱品種上位ランキング(外貨)

順位	輸 出		輸 入	
	品 種 名	貨物量(千トン)	品 種 名	貨物量(千トン)
1	米	6	木材チップ	156
2	鉄 鋼	4	原 木	101
3	鋼 材	4	鋼 材	14

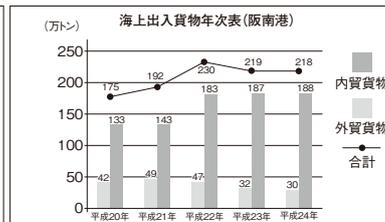
●阪南港 取扱品種上位ランキング(内貨)

順位	移 出		移 入	
	品 種 名	貨物量(千トン)	品 種 名	貨物量(千トン)
1	砂 利・砂	60	砂 利・砂	847
2	再利用資材	29	廃 土 砂	261
3	廃 土 砂	26	石油製品	184

●入港船舶(阪南港)



●海上出入貨物(阪南港)



●深日港

入港船舶数は41隻、総トン数は6,099トン、全て係留船でした。

●尾崎港・泉州港・泉佐野港

尾崎港

入港船舶数は3,137隻、総トン数は25,096トン、取扱貨物量は110トン(水産品)でした。

泉州港

入港船舶数は6,029隻、全て内航船です。客船がほとんどで、5,765隻と全体の96%を占めています。乗降人員は下表のとおりです。取扱貨物量は125万トン(石油製品)でした。

●泉州港 客船乗降人員(人)

航 路	平成23年			平成24年		
	乗込	上陸	合 計	乗込	上陸	合 計
関空～神戸	177,604	189,028	366,632	176,660	189,878	366,538

※関空～洲本航路は平成19年4月より休航になりました。

泉佐野港

平成10年から淡路島(津名)との間に就航していたフェリーは、平成19年2月より休航になりました。
 入港船舶数は33隻、総トン数は9,566トン、取扱貨物量は2,600トン(窯業品)でした。

平成24年 大阪府営港湾の港勢

大阪府港湾局経営振興課施設運営グループ

■平成24年 港別入港船舶及び海上出入貨物状況

港名		入港船舶		取扱貨物量	取扱貨物量の内訳					
		隻数	総トン数		外 貿			内 貿		
					計	輸 出	輸 入	計	移 出	移 入
		隻	G/T	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン
堺泉北港	全 体	32,740	81,514,295	74,984,284	32,333,657	4,412,937	27,920,720	42,650,627	19,194,174	23,456,453
		(356)	(4,753,668)	(9,059,055)	(-)	(-)	(-)	(9,059,055)	(4,513,815)	(4,545,240)
堺泉北港	う ち 公 共	7,396	20,308,082	16,336,708	2,650,511	1,294,895	1,355,616	13,686,197	6,122,773	7,563,424
		(356)	(4,753,668)	(9,059,055)	(-)	(-)	(-)	(9,059,055)	(4,513,815)	(4,545,240)
阪南港	全 体	7,727	2,779,576	2,180,330	296,355	13,371	282,984	1,883,975	151,236	1,732,739
	う ち 公 共	7,359	2,514,073	1,887,476	296,355	13,371	282,984	1,591,121	151,196	1,439,925
深日港	全 体	41	6,099	0	-	-	-	-	-	-
	う ち 公 共	41	6,099	0	-	-	-	-	-	-
尾崎港	全 体	3,137	25,096	110	-	-	-	110	-	110
	う ち 公 共	3,137	25,096	110	-	-	-	110	-	110
泉州港	全 体	6,029	1,289,938	1,251,390	-	-	-	1,251,390	-	1,251,390
	う ち 公 共	-	-	-	-	-	-	-	-	-
泉佐野港	全 体	33	9,566	2,600	-	-	-	2,600	2,600	0
		(0)	(0)	(0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
泉佐野港	う ち 公 共	33	9,566	2,600	-	-	-	2,600	2,600	0
		(0)	(0)	(0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
合 計	全 体	49,707	85,624,570	78,418,714	32,630,012	4,426,308	28,203,704	45,788,702	19,348,010	26,440,692
		(356)	(4,753,668)	(9,059,055)	(-)	(-)	(-)	(9,059,055)	(4,513,815)	(4,545,240)
合 計	う ち 公 共	17,966	22,862,916	18,226,894	2,946,866	1,308,266	1,638,600	15,280,028	6,276,569	9,003,459
		(356)	(4,753,668)	(9,059,055)	(-)	(-)	(-)	(9,059,055)	(4,513,815)	(4,545,240)

注:下段は内数公共。()内は、フェリーを表す。

大阪府営港湾ポートセミナーin大阪 開催 大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

大阪府港湾局では、大阪府港湾協会、堺泉北港港湾振興連絡協議会及び阪南港港湾振興連絡協議会とともに、大阪において大阪府営港湾ポートセミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、堺泉北港と内航定期航路で結ばれている宮崎から、宮崎県ポートセールス協議会の共催を得て開催し、府営港湾の知名度向上とともに、より一層の利用促進を図るため、船会社・代理店・物流関係企業・港湾運送事業者・荷主企業等を対象に、港湾の府市統合や防災をはじめとする府営港湾の紹介やPRを行いました。

また、セミナー後は、主催者と参加者の情報交換や商談会を兼ねた交流会を開催しました。

開催日…平成25年3月21日(木)

開催場所…ホテル大阪ベイタワー「ベイタワーホール」

参加人数…172名

内 容…

- 開会の挨拶……………大阪府港湾局長 井上 博睦
- 「大阪府営港湾の概要について」……大阪府港湾局 経営振興課 課長 鳥牧 昭夫
- 「宮崎県の港湾の概要」……………宮崎県県土整備部 港湾課 空港・ポートセールス担当 副主幹 中武 透 氏
- 「港湾の府市統合について」……………大阪府港湾局 次長 河野 敬太郎
- 「府営港湾の防災対策について」……大阪府港湾局 総務企画課 危機管理グループ 主査 原田 雄造

主催 大阪府港湾局 大阪府港湾協会 堺泉北港港湾振興連絡協議会 阪南港港湾振興連絡協議会

共催 宮崎県ポートセールス協議会

協力 大王海運(株) 八興運輸(株) 阪九フェリー(株) 堺泉北埠頭(株)



大阪府営港湾国際経済セミナー開催

大阪府港湾協会

平成25年2月4日(月)、堺国際ビジネス推進協議会との共催により、府営港湾関連企業や府営港湾進出団体の方を対象とした「大阪府営港湾国際経済セミナー2013」を開催しました。

本セミナーでは、中国・東南アジアの物流に焦点をあて、現状と今後について、新政権発足後の中国経済を踏まえて、株式会社日通総合研究所 ロジスティクス コンサルティング部 主任コンサルタントの陳 麗梅 氏をお招きし、「中国・東南アジア物流の現状と今後～新政権発足後の中国経済を視野に～」をテーマにご講演いただきました。

参加者の方々からは、中国の輸出入に関する未知の情報を教えていただき参考になったなどの御感想をいただきました。

開催日…平成25年2月4日(月)

開催場所…ホテル・アゴーラ リージェンシー堺

参加人数…69名

内 容…

○主催者挨拶 ……大阪府港湾協会会長 金盛 弥

○講演 ……………「中国・東南アジア物流の現状と今後～新政権発足後の中国経済を視野に～」

株式会社日通総合研究所 ロジスティクス コンサルティング部

主任コンサルタント 陳 麗梅 氏



堺泉北港地元港湾振興会合同視察を実施

高石港湾振興会

平成25年1月29日(火)、和歌山下津港海南地区に築造工事中の世界初と言われております直立浮上式津波防波堤工事現場において、堺泉北港地元港湾振興会(堺・泉大津・高石)合同視察を実施いたしました。

当日は、事務局も含め34名の参加があり、海南市の海南海草環境衛生施設組合において、国土交通省近畿地方整備局和歌山港湾事務所河村副所長・山中海岸管理係長より工事内容等について説明をいただきました。その後、下津港の工事現場を視察いたしました。

この地区は、紀伊水道に面したリアス式の湾奥に位置し、その地形的特性からこれまで昭和南海地震やチリ地震等による津波浸水被害を被っています。また、今後30年以内に高い確率で発生するであろうといわれている東海・東南海・南海地震において、現状の防潮堤の高さをはるかに超える津波が襲来すると予測されています。

この直立浮上式津波防波堤は、海底面下に一定の間隔で壁状に設置した下部鋼管の中に、それより直径の小さい上部鋼管が格納され、津波が襲来したときなど、異常時に海底から上部鋼管が浮上し、防波堤の役割を果たします。

このように、施設全体を海底面下に格納することで、従来は防波堤設備が不可能であった港口部、河口部にも防波堤を設置することができ、船舶の航行にも支障なく、潮流の変化など新たな環境負荷もなく、景観も変わることはないとのことでした。

東日本大震災を教訓に、人命・財産を守る新たな取り組みの視察は、有意義なものとなりました。

最後に、今回の視察にご協力、ご参加いただきました方々に本紙面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。



大阪府営港湾新人研修会実施

堺泉北港港湾振興連絡協議会・阪南港港湾振興連絡協議会

府営港湾を利用されている企業や各種団体の新入職員や他地域から転入して来られた方々を対象に、大阪府営港湾新人研修会を開催しました。

研修会では、府営港湾について理解を深めていただき、日常の業務に役立てていただくことを目的として、大阪府港湾局の職員が府営港湾の現況や事業、保安対策について概要を紹介しました。また、昨年を引き続いて、府営港湾における災害対策の取り組みや災害発生時の対応についても重点的に説明しました。

参加された方からは、「講義の内容がよく理解できた」「継続的に防災のテーマを取り上げて欲しい」などのご意見をいただきました。今後も充実した研修会を開催して参ります。

実施日：平成25年5月29日(水)

場 所：堺泉北港ポートサービスセンタービル2F きららホール

参加者：39名

主 催：堺泉北港港湾振興連絡協議会(大阪府、堺市、高石市、泉大津市)
阪南港港湾振興連絡協議会(大阪府、岸和田市、貝塚市、忠岡町)

内 容：「港湾局事業の概要について」

大阪府港湾局計画調整課計画グループ 総括主査 池田 裕紀

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ 総括主査 前田 実

「港湾の保安対策について」

大阪府港湾局総務企画課危機管理グループ 主査 佃 計司

「港湾・海岸部の防災対策について」

大阪府港湾局総務企画課危機管理グループ 主査 原田 雄造



アフリカビジネスセミナー開催

堺泉北港港湾振興連絡協議会

継続的な経済成長と人口増にともなう中間所得層の増大により、今後ますますの中古車市場拡大が見込まれるアフリカの現状について理解を深めていただくため、中古車輸出に携わる事業者等を対象に、「アフリカビジネスセミナー」を開催いたしました。

本セミナーでは、日本貿易振興機構 (JETRO) ナイロビ事務所長 小松崎 宏之氏をお招きし、「ケニアを中心とした東アフリカ地域の経済概況」と題して、貿易統計に基づいた東アフリカ諸国の経済状況や企業活動状況についてご講演いただきました。

開催日 平成25年6月6日(木)

開催場所 きららセンタービル2階 会議室

参加人数 16名

内容 講演「ケニアを中心とした東アフリカ地域の経済概況」
日本貿易振興機構 (JETRO) ナイロビ事務所
所長 小松崎 宏之 氏



WELCOME!世界からのお客様

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

■平成25年3月6日(水)、7日(木) 大阪府営港湾視察

中国 大連港政府関係者視察団

団長 劉薇氏

副団長 李振玉氏 ほか19名

この度、中国大連港より、政府関係者視察団が来日され、神戸港、大阪港と併せて、府営港湾を視察されました。

3月6日(水)は、堺泉北港を代表する貨物であるLNGを取り扱う、堺LNG株式会社を視察され、3月7日(木)は、府港湾局にて府営港湾の紹介を受けた後、大規模地震対策施設として整備された、堺2区基幹的広域防災拠点を視察されました。

視察団より、LNGの取り扱いや、防災に関することについて、積極的な質疑がなされ、活発な意見交換が行われました。



ようこそ大阪府営港湾へ ～初入港のご紹介～ 大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

大阪府港湾局では、府営港湾に初めて入港する船舶に対し、大阪府港湾協会や地元市港湾振興会と協力して、初入港記念楯及び地元市からの記念品の贈呈等を行っています。

DIVINE ACE

(59,022総トン)

平成25年1月23日(水)

堺泉北港汐見埠頭

汐見第5号岸壁

貨物船(自動車専用船)



かいもん丸

(66,071総トン)

平成25年1月28日(月)

堺泉北港

大阪国際石油精製株式会社 原油栈橋

油槽船



とうきょう丸

(66,071総トン)

平成25年6月15日(土)

堺泉北港

大阪国際石油精製株式会社 原油栈橋

油槽船



夕風第1号岸壁供用開始後の初入港船

GOLDEN FAN

(12,442総トン)

平成25年4月24日(水)

堺泉北港汐見埠頭

夕風第1号岸壁

貨物船(自動車専用船)



INFORMATION

運営委員会

<平成24年度 第3回>

日時：平成25年3月12日(火) 午前10時～

場所：堺泉北港ポートサービスセンタービル 2階 201・202号室

- 議事：(1)平成24年度事業報告について
(2)平成25年度事業について
(3)創立50周年記念事業について

<平成25年度 第1回>

日時：平成25年6月19日(水) 午前10時～

場所：堺泉北港ポートサービスセンタービル 2階 201・202号室

- 議事：(1)平成24年度事業報告並びに収支決算報告
(2)平成25年度事業計画(案)並びに収支予算(案)
(3)その他